

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団 MAGAZINE

クローズアップ Close-up

折り紙的なデザインと、 それを使った創作方法

Designing Origami Models in a Way Origami Creators Do

神谷哲史

Kamiya Satoshi

展開図折りに挑戦！Crease Pattern Challenge!

バイオリン奏者

Violinist

森澤碧人

Morisawa Aoto



折り図 Diagrams

ファイアリードラゴン ver.2

Fiery Dragon ver.2

ケイド・チャン

Kade Chan

つまみおり Information

国際大学折紙連盟 折り紙作品展

International Collegiate Origami Association Exhibition

通巻 152 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating valley fold

山折り線
Line indicating mountain fold

手前に折る
Fold paper forwards

後ろへ折る
Fold paper backwards

折り筋をつける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えないところ
A hidden line

押す、押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

「ファイアリードラゴン ver.2」
(P.26)

Fiery Dragon ver.2 (P.26)

作:ケイド・チャン
by Kade Chan

■コンプレックス作品の題材として、代表格のひとつとなっているドラゴン。さまざまなお先行作品がある中へ自作を投入するために、創作者それぞれが新たな視点・技術を盛り込もうとしています。本作では多数のカドを折り出すのは当然のこととして、さらに全身各部にわたって、繊細に調整された曲面構成が際立っています。

(解説:北條高史) Comments : Hojyo Takashi

No. 152



Fiery Dragon ver.2: Kade Chan

クローズアップ／Close-up

P.13 折り紙的なデザインと、
それを使った創作方法

Designing Origami Models in a Way
Origami Creators Do

神谷哲史
Kamiya Satoshi

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.26 ファイアリードラゴン ver.2

Fiery Dragon ver.2



ケイド・チャン
Kade Chan

P.37 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

バイオリン奏者

Violinist
森澤碧人
Morisawa Aoto

カラーページ／Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments : Hojo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

V字135°-正方形から

A V-Shape 135° Module (Out of a Square)

布施知子

Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

アサガオ・サンタクロースの箸袋

Morning Glory, Chopstick Wrapper (Santa Claus)

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

川村みゆき

Kawamura Miyuki

『すごいぞ折り紙2 折り紙の発想で幾何を楽しむ』

“Wonderful Origami 2: The World of Geometry with Origami.”

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

細谷治夫

Hosoya Haruo

2枚の正方形から立方八面体を折る

Cuboctahedron Out of Two Squares

P.38 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

伊藤晴美

Ito Harumi

取材:川村みゆき

Kawamura Miyuki

コラム／Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.35 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

鶴田芳理

Tsuruta Yoshimasa

P.36 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報／Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

国際大学折紙連盟 折り紙作品展

International Collegiate Origami Association Exhibition

ユニット 折り紙 カルテット 四重奏

布施知子

Fuse Tomoko

V字135°-正方形から

A V-Shape 135° Module (Out of a Square)

この作品は『ユニット折り紙ファンタジー』(日貿出版社)に発表済みです。

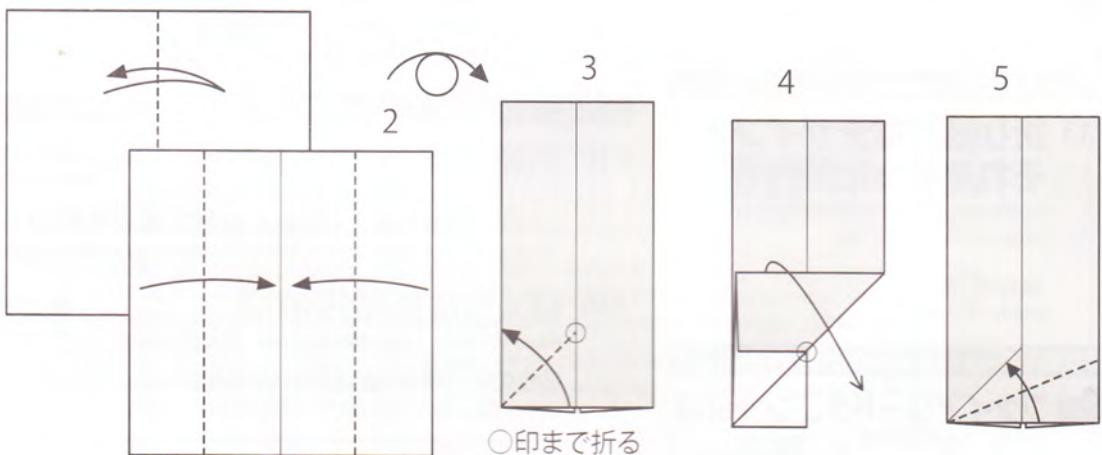
このユニットのくぼみのすき間に、いろいろな飾りをはさむことができる方に気づいて、いくつか考えていましたが、発表の機会を得ないまま過ごすうち、いろいろな人がこのユニットに飾りをつけ、ネット上で発表されました。遅れをとりましたが、ここでいくつか紹介します。まだいろいろな飾りを差し込むことができると思います。ここでは30枚組を基本とします。

ユニットのキーワードは「すき間に差し込む」。ここではそれを装飾として發揮させます。

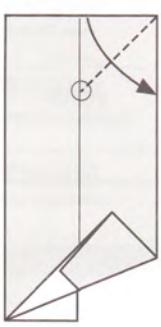


7.5×7.5cm

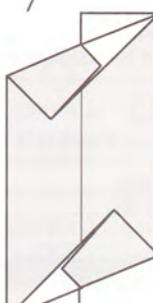
1



もう一方も4~5と同じように折る
6

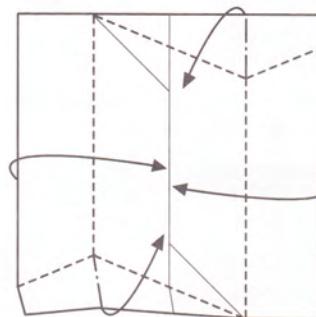


7

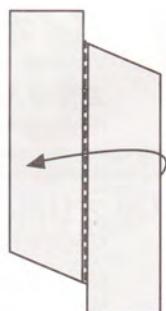


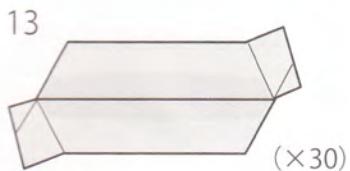
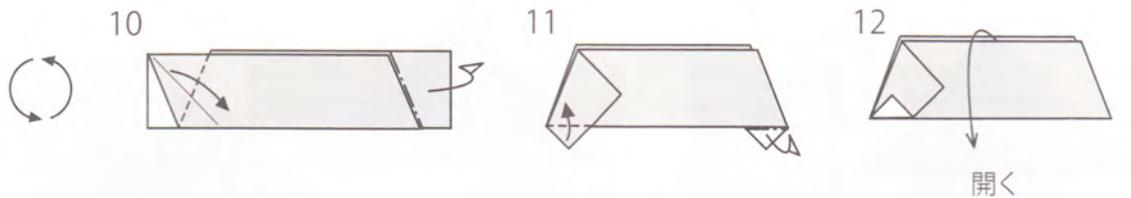
全部開く

8



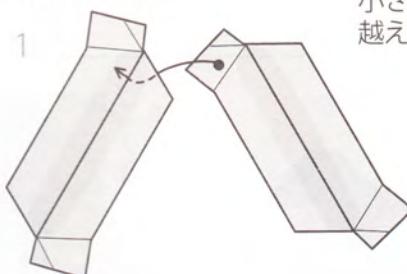
9



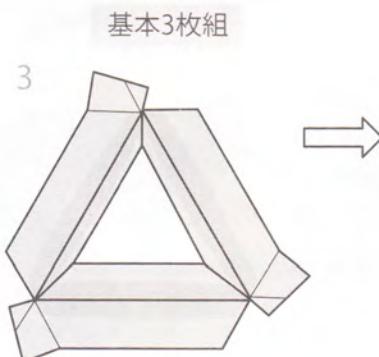
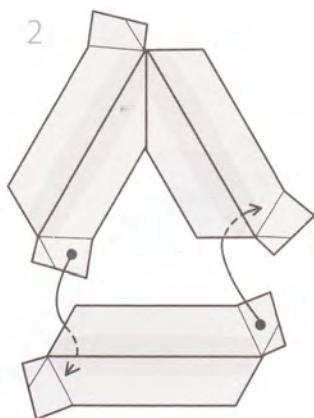


(V字にくぼんでいる。ここに飾りを差し込む)

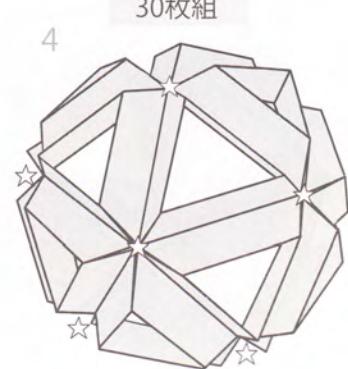
[組み方]



小さい三角はV字の谷を越えて差し込む



基本3枚組



30枚組

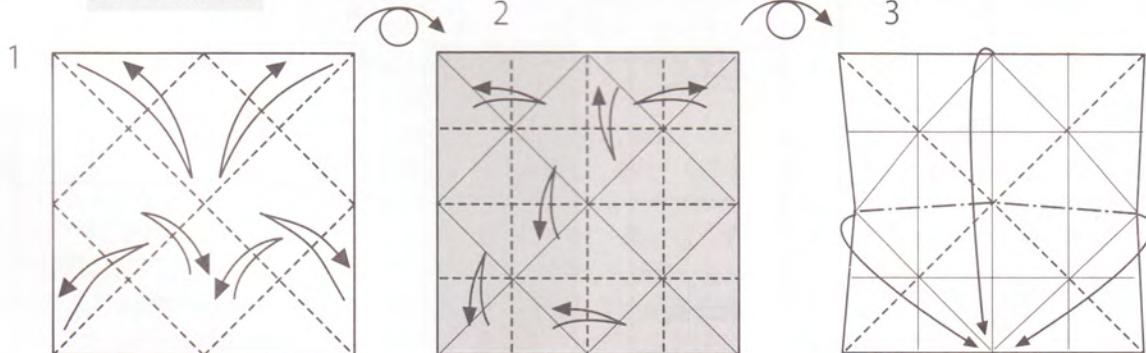
右の完成図の☆印に、
5つのユニットが集ま
るように組む。

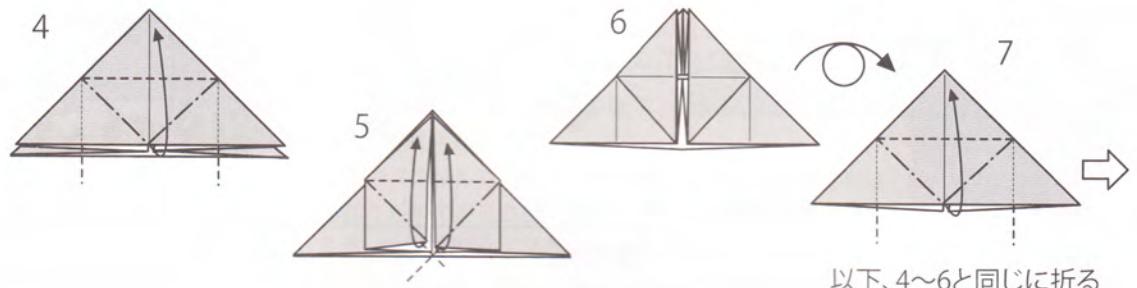
V字135° + トライアングルプリーツ

V-Shape 135° Modules with Triangular Pleats

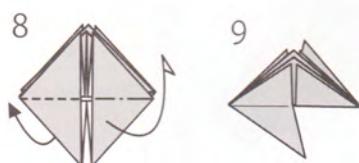
すき間にはさむ飾りです。本体と同じ大きさの紙から折ります。

7.5×7.5cm

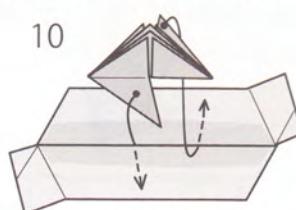




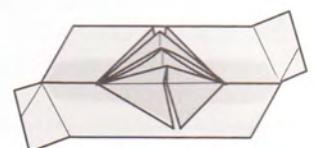
以下、4~6と同じに折る



[ユニットへの取り付け方]



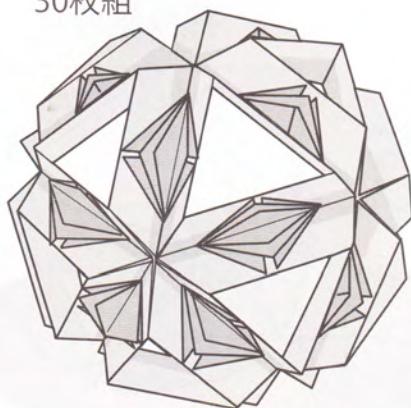
11



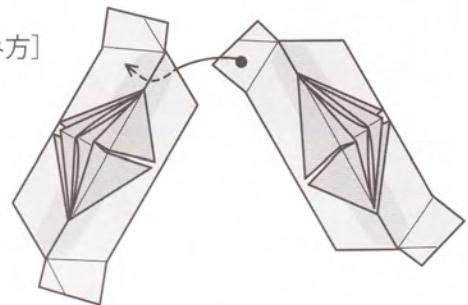
30枚組

5ページ13

(×12) (×30)など



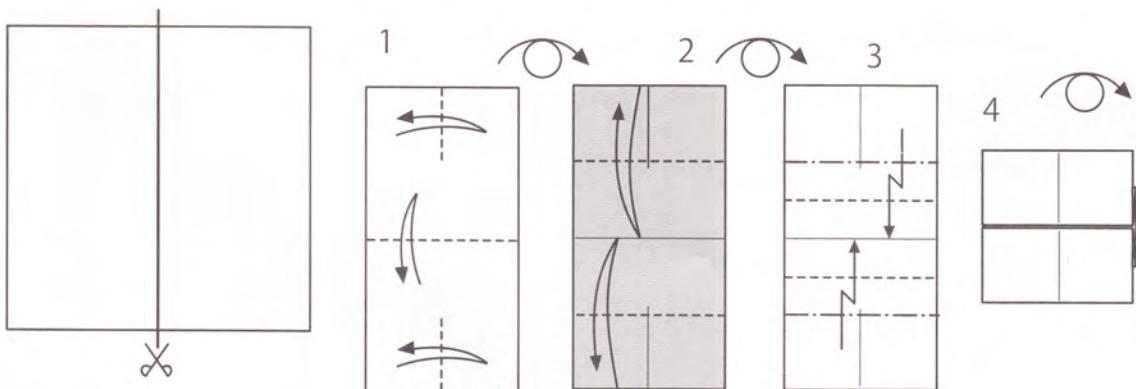
[組み方]

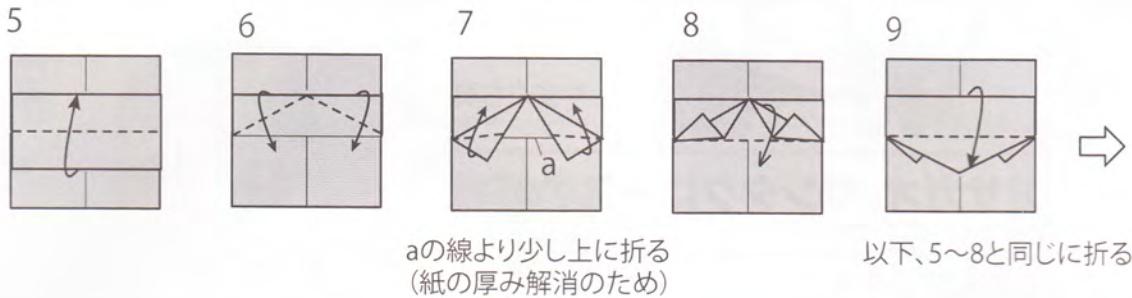


V字135° + 菱

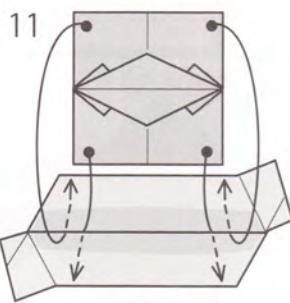
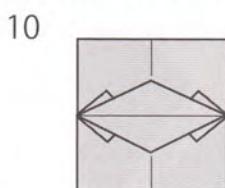
7.5×3.75cm

V-Shape 135° Modules with Diamond Shape Patterns

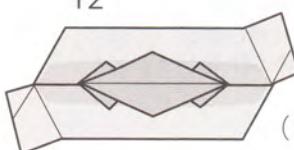




[ユニットへの取り付け方]

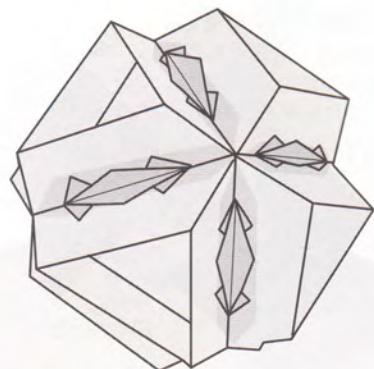


5ページ13



(×12) (×30)など

12枚組



折り紙の周辺

第71回 続、線を引く Drawing Lines (Cont'd)

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

あるとき平織系作品の前で、ある人がこう言った。「これは時間をかければ、だれでもできる」

その場で作品を鑑賞していた人はちょっと引いた。平織を手がけたことの無い人には言ってほしくない台詞だが、確かに一理ある。ユニット何百枚組という大作や、平織など、とりあえずたくさんの時間が必要。同じ作業をこつこつと続けなければ作品は完成しない。だれにでもできるかどうかはわからないけれど、「やるか、やらないか」まあ、た

だそれだけの問題ですね。だけどそう言ってしまってはミモフタもない。時間をかけた者だけが見える世界、達成感、そうしなければ表現できないものがある。私はユニットや平織などをするので、いつもこう問いかけている。「ここでやらなければ、いつやれる?」昨年流行った言葉で言えば「今でしょ」ということになる。その気になればだれでもできるけど、険しい道。

そして願うことは、完成した作品を前にした人が、それに費やした時間より先に、作品の美しさを感じるように。時間が融けて作品だけが輝くように。

展覧会と、あたらしく依頼された大きい平織のために、線を引く日々は続いている。家庭用テーブルの上で長い線は引けず、床に這って引くので、膝のぐりぐりが痛いところしていたら、連れ合いが農作業用品売り場でバレーボール選手が

するような膝あてを買っててくれた。それを着装して床を這っている。折り紙には体力も必要と痛感する。

季節は動きを止めない。散歩すると、栗の花の匂いとマタタビの花の匂いが入り交じって流れてくる。ちょっと前まではスイカズラが匂っていたのに。季節の動きを速いと感じるのは年齢を重ねてきたせいだろう、と連れ合いと笑う。季節は巡るが、同じであることはない。年々変化している。カモシカにもよく会うようになった。これも変化のひとつ。山中の散歩は気分を新鮮にする。ソヨゴの地味な花にはミツバチがたくさん集まってぶんぶん蜜をあつめている。庭のちいさな池には今年もモリアオガエルが卵を産んだ。さまざまな匂いを嗅ぎ、音を聞き、光を眺める。そしてまた、線を引いたり、折り疊んだり、同じ事をくり返す時間がかかる地味な作業にとりかかる。

おりがみ 我楽多市

がらくたいち

Origami Odds and Ends

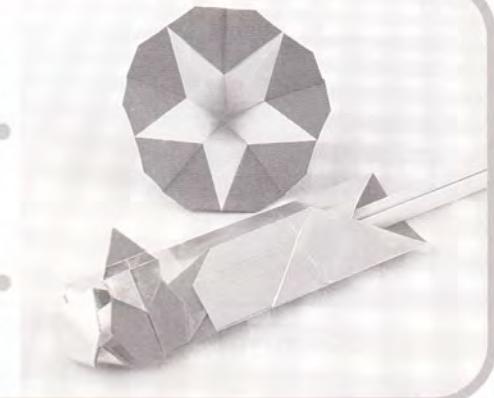
やまぐち真
Yamaguchi Makoto

第73回 アサガオ, サンタクロースの箸袋

Morning Glory: Yamaguchi Makoto,
Chopstick Wrapper (Santa Claus): Inayoshi Hidehisa

アサガオ:やまぐち真・作, サンタクロースの箸袋:稻吉秀尚・作

アサガオは、きっちり正確に折らないと、最後の立体化がきれいにできないのでご注意を。サンタクロースの箸袋は、図19で一気に折り畳むので、その前工程の折り筋を正確につけましょう。

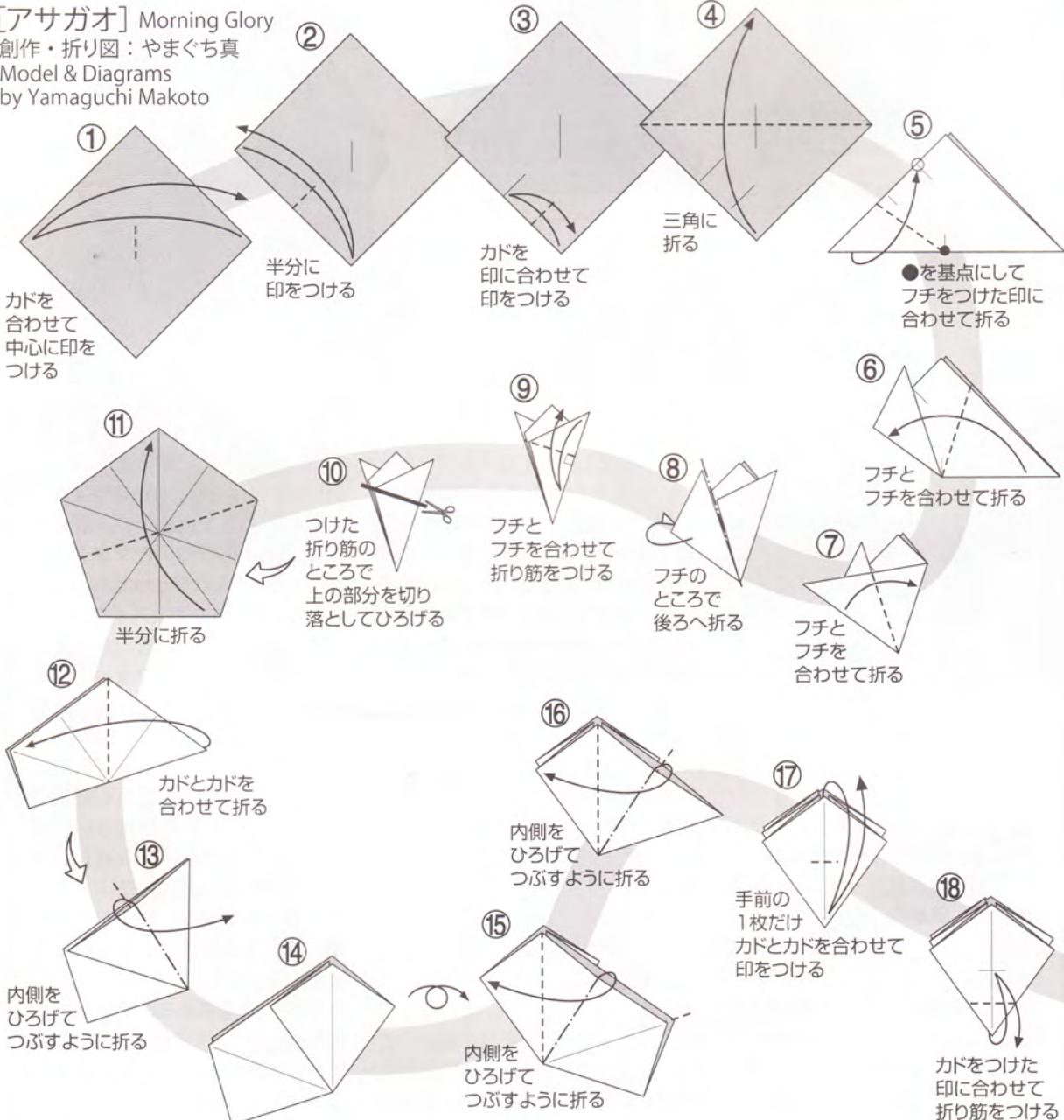


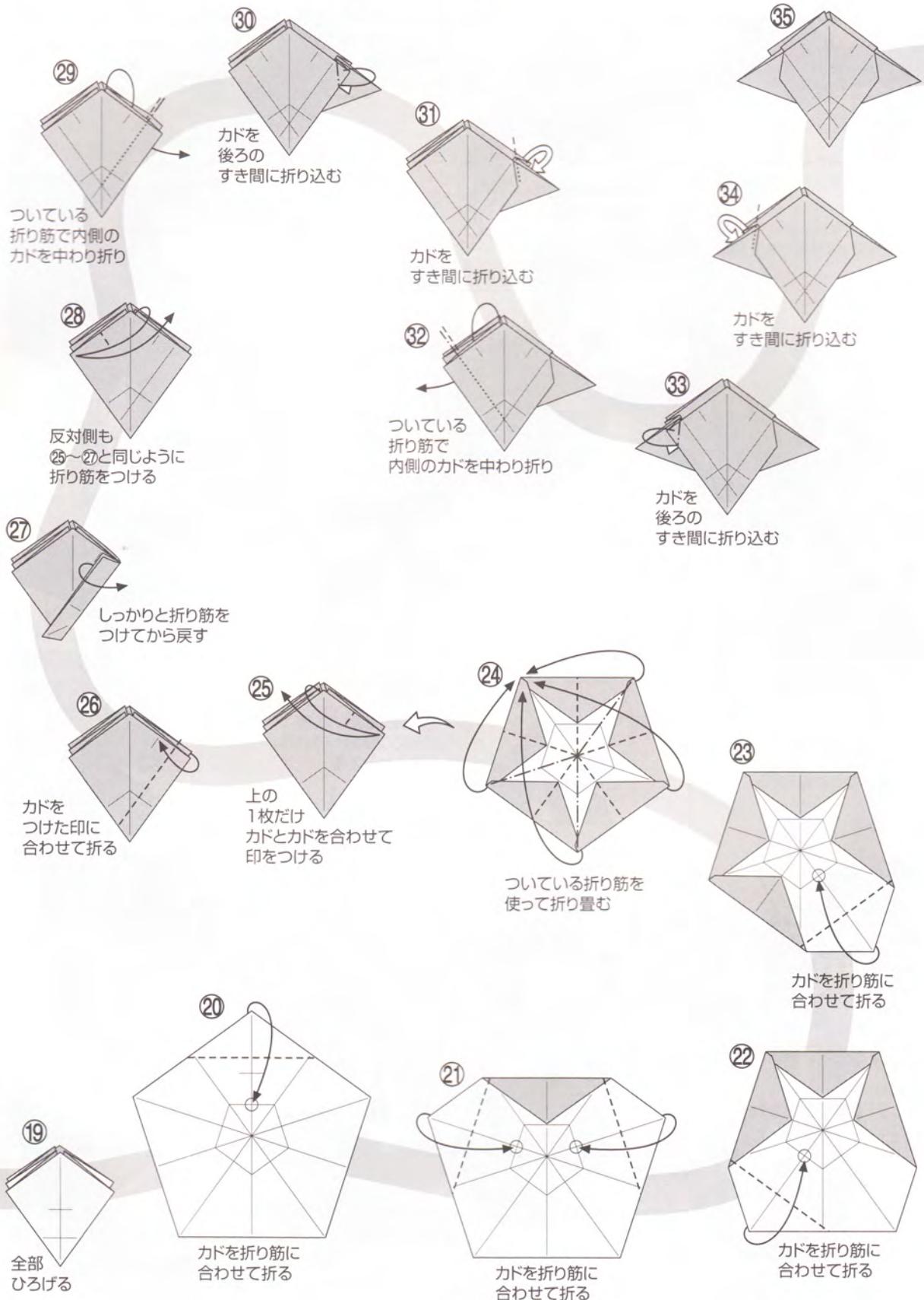
[アサガオ] Morning Glory

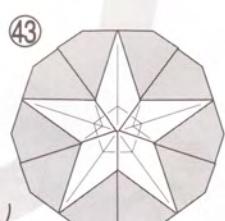
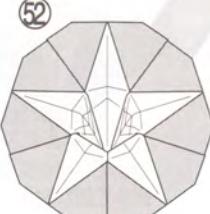
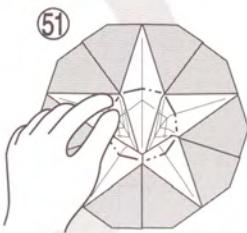
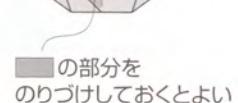
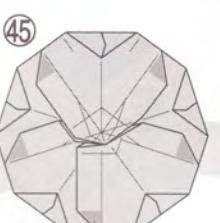
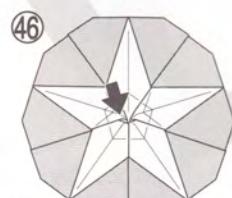
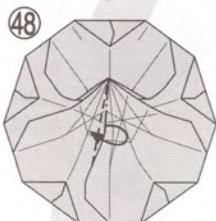
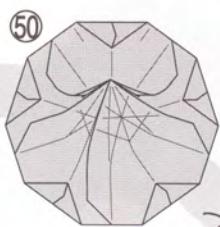
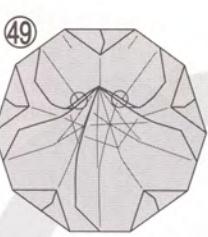
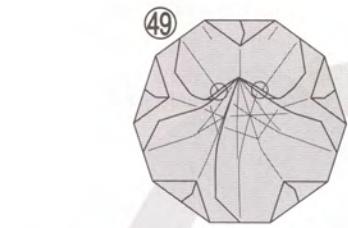
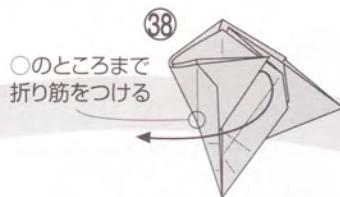
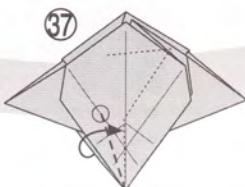
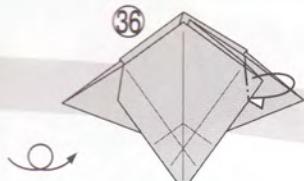
創作・折り図: やまぐち真

Model & Diagrams

by Yamaguchi Makoto

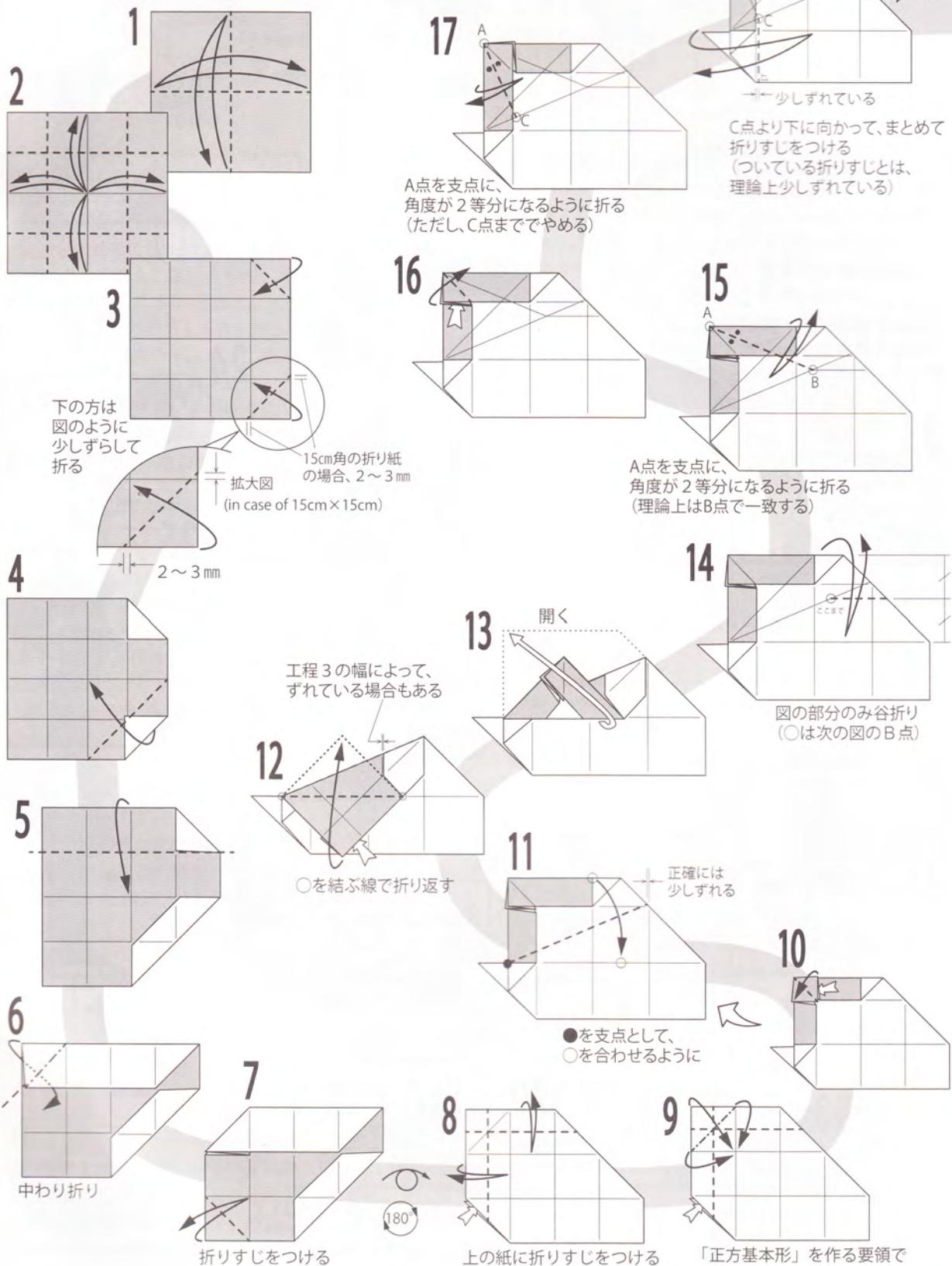


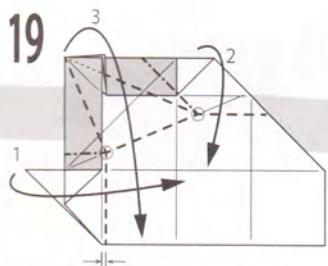




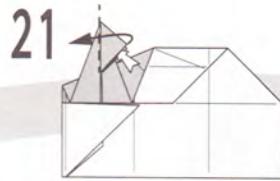
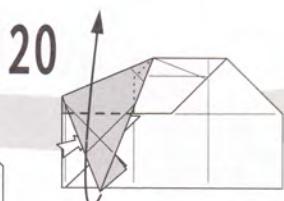
[サンタクロースの箸袋]
Chopstick Wrapper (Santa Claus)

創作・折り図：稻吉秀尚
Model & Diagrams by Inayoshi Hidehisa

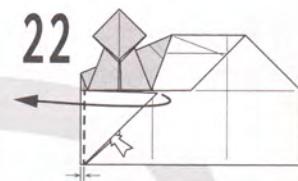




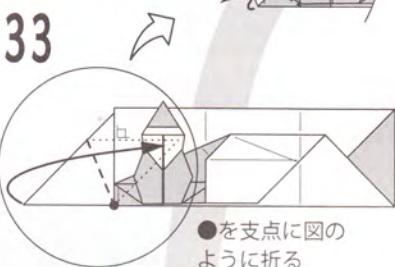
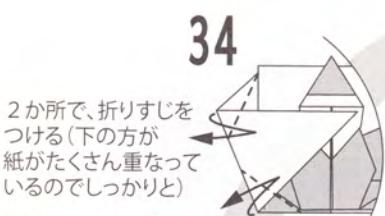
これまでにつけた折りすじを使って
1～3の順に折りたたむ
(ただし、2本の山折り線は、
新しい折り目)



上の1枚を反対側へ



ぞれでいる部分に注意しながら
上の紙をついている折りすじで
谷折り



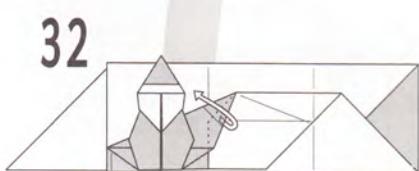
●を支点に図の
ように折る



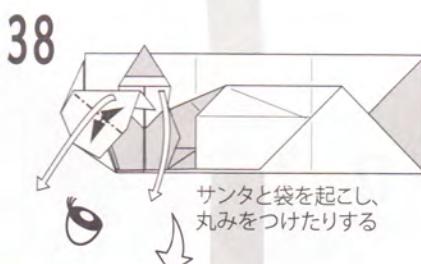
中わり折り



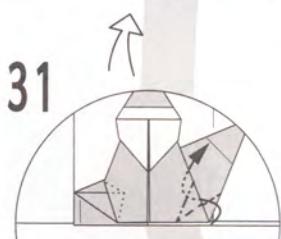
上の紙に
折り目が
付かないよう
にはね上げるようにして山折り



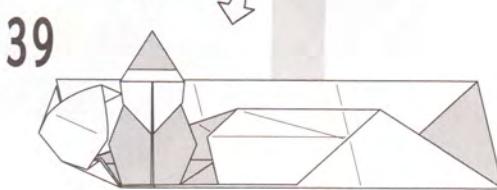
下から紙を引き出す



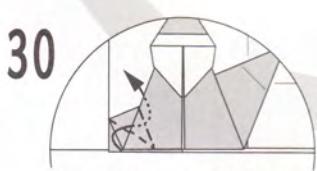
サンタと袋を起こし、
丸みをつけたりする



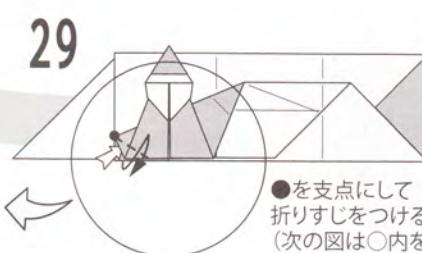
左右対称になるように、内側に
引き寄せるように折る



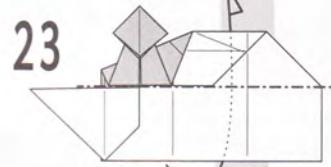
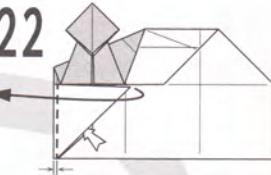
できあがり
(袋の形状、顔や、体の輪郭は
お好みでアレンジしてください)



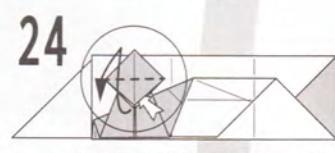
内側に引き寄せるように折る
(山折りは、工程29でついた
折りすじではない)



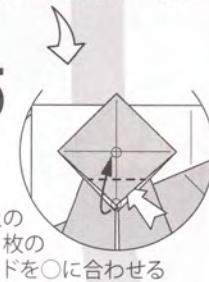
●を支点にして
折りすじをつける
(次の図は○内を拡大)



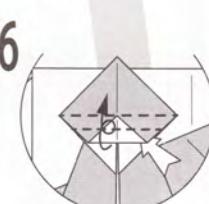
山折りで折り上げる



上の1枚のみ折りすじをつける



上の
1枚の
カドを○に合わせる



巻くように折る



後ろに
隠れているフチを目安に



2か所で山折り



折り紙的なデザインと、それを使った創作方法

Designing Origami Models in a Way Origami Creators Do

神谷哲史

Kamiya Satoshi

はじめに

折り紙作品を創作するとき、まずなにから始めるでしょうか？作家や題材によって違うと思いますが、樹状図を考える、基本形を選ぶ、もちろん直接紙を折り始める場合もあると思います。今回紹介するのは、最初に折り紙的なデザインの完成形を予測して、それを目指して創作を進めていくという手順です。ヒツジの創作過程を例にして紹介します。

創作の手順

今回の手順では、完成までの作業を以下のように分けます（実は実際の創作ではいくつかの工程を同時に考えたり、手順が前後したりするケースも多いのですが、今回は便宜上分けて説明します）。

1. 折る対象の決定=何をどこまで折るかの決定
2. 完成イメージ化=目的とする折り紙的な形を考える
3. 基本的な形状の予測=必要なカドの大きさや形などを予測
4. おまかなかたちの決定=紙の向きや基本的な構造、カドの位置関係などの決定
5. 基本形の折り出し=仕上げ前のおまかなかたちを折り出す
6. 仕上げ=細かい形の仕上げ

おまかなかたちとしては、まず折りたい形を決めてから、それをなるべく単純化した上で、それを再現するように折っていくというようなかたちになります。特長は、最初に目標となる形を決めておく事で、各段階での評価がしやすい事、またそれによって創作作業の効率化や、安定した完成形を得る事が出来る事でしょう

か（創作活動に「効率」という言葉はどうかという気もしますが、ブラッシュアップにかけられる時間が増えると考えればそう悪くありません）。それぞれの手順を詳しく見ていきます。

折る対象の決定

まず最初に行うのは、折る題材を決める事と、実際に折り出す要素の取捨選択をして、折りたい形を明確にする事です。これは今回の創作手順に限らず、題材を決めて創作をする場合に、まず最初に考える事ではないでしょうか？折り紙で折る事が出来る形には、残念ながら物理的・時間的な限界があります。そのため、まず最初にそれぞれの部分を折るか折らないか、もし折るとしたらどの程度まで折るかを決めておく必要があります（折るべき形を考えるとでもいうのでしょうか）。この時、形の種類や細かさなど、ある程度バランスを取り、一部分だけ細かくなりすぎないように気をつけると良いでしょう。作例のヒツジでは、主に以下のように決めています。「ノコノコは折りたい」「目も折り出したい」「毛の表現は行わない」「色分けは取り入れたい」「蹄も分けたい」。この項目を目安にして、折りたい形を考えていきます。

完成イメージ化

次に、それを元にして完成作品のイメージを考えます。ここで考えるべき形は、端的に言えば、「実際に折れそうな完成形」です。どんなに立派な完成イメージであっても、それがとても折れそうにない形では意味がありません。あくまで創作の際に具体的な目標に出来る、実際に折れそうな形を考えます。ある程度慣れてしまえ

ば頭の中で考えるだけでも十分ではあるのですが、簡単なものでもいいので実際に描いてみると、整理がしやすいと思います。方法はいろいろありますが、写真や図鑑的な絵をトレースするとやりやすいでしょう。折り紙の造形は基本的に直線の組み合わせ、より正確には多角形の組み合わせで出来ています。そのため、この段階でも多角形を意識して描いてみるとそれらしい形になります。また、可能であればこの段階で実際に折る事を考えて形を決めるとより再現性が高くなります。

作例のヒツジでは、図1のような形を用意しました。形としては写真を参考にして折り紙っぽい形にトレースしただけですが、一応それぞれのパートについて、実際に折る方法も考えて形を決めています。少し前後しますが、トレース時のコツとして、なるべく折り出しやすい形や角度を使うと、より「実際に折れそうなイメージ」になります。作例のヒツジでも、主要な部分の角度はほぼすべて22.5度の倍数になっています（図2）。整理すると、今回の創作手順での「完成イメージ化」とは、実際に折れそうな完成形を考える事です。またそのためには、なるべく折りやすい形や角度を使うのが有効です。

余談ですが、この方法を応用すると、実在しない架空の折り紙作品の絵を描く事が出来ます。適当な場所に紙の重なりや余計な線、折り筋な

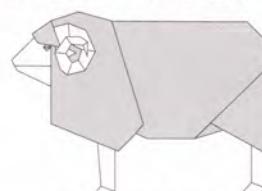


図1 完成予想イメージ図



折り紙的なデザインと、それを使った創作方法

Designing Origami Models in a Way Origami Creators Do

神谷哲史

Kamiya Satoshi

どを追加するとかなりそれっぽくなります。

基本的な形状の予測

次に行うのが、基本的な形状の予測です。用意したイメージを元にしてそれをどうやって折るか?を考えています。イメージをより単純化、言い換えると細部を折り込む前の形を予想します。実際の作業としては、にらみ折りと近い事を行います。それぞれのパーツが、どのようにすれば折り出せるのかを考えて、元となるカドの形を予測していきます(図3)。とはいっても、よほど出来のいい完成予想イメージでないかぎり、なかなか完璧に出来るものではありません。だいたいこんなカドがあれば折れるだろうという程度で十分です。この時のコツとしては、カドの長さで悩んだら長めにしておく事と、前の手順と同様22.5度など、なるべく折りやすい形を意識する事でしょうか。ヒツジの場合であれば、ツノは巻くように折る前

の長さに、脚は蹄や色分けのため少し長めにしています。また、カドの出る位置についても、フチを同一線上に合わせるなど折りやすそうな形に調整しています(図4)。

おおまかな構造の決定

次は、単純化した形を元にして、実際に折る方法を考えていきます。この段階についてはケースバイケースで、経験に頼るところが大きくなるように思います。作例のヒツジでは、よく見てみると顔とツノのバランスが鶴の基本形に近い形になっています(図5)。頭部の構造としてそのまま仮採用して紙の向きを決定、それを起点にしておおまかなカドの配置なども決めていきます(図6)。

基本形の折り出し

基本的な構造と、目標とするベースの形がそろったので、実際に折れるかどうか試してみます。ここでやっと紙を折り始めます。この作業は基本的

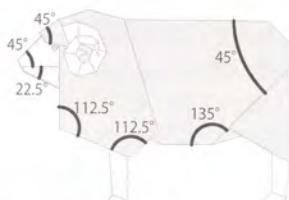


図2 主要なパートの角度が22.5度の倍数になっている

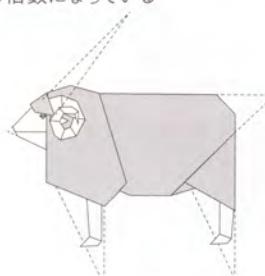


図3 必要なカドの予測

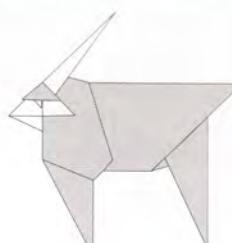


図4 基本形イメージ図

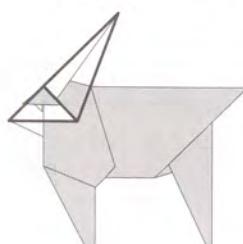


図5 使えそうな22.5度の原子

に試行錯誤ですが、完全に予想通りにいかないケースもありますので、妥協や場合によっては前の手順に戻ることも必要でしょう。ヒツジの場合では頭部の構造をすでに決めているので、まずは頭部から始めて前から後ろへ順番で折り進めています。前足を下向きに出るように折っておいてから、首から肩の部分を折り畳み、そこから後ろへ延びたヒダを使って後ろ足を折り出します(図7)。そうして出来たのが基本形試作(写真1)です。一応簡単に仕上げを試して、これでとりあえずヒツジに見える形は出来ました。

評価と修正

一応は形は出来ましたが、まだ完成ではありません。より良い作品を目指して試作と改良を繰り返していくます。創作した本人が評価を行うのは、どうしても折れた嬉しさや自作に対する賛美もあり、難しい面もあるのですが、今回の創作手順では先に目標とする形を決めているので、それと

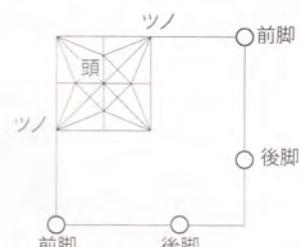


図6 基本的な構造とおおまかなカド配置

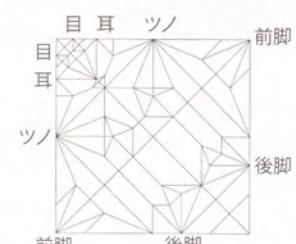


図7 試作基本形の展開図

○神谷哲史(かみや・さとし)=1981年
名古屋市生まれ。折り紙以外の趣味は
自転車。著者遠影は恐らく折り紙を折り
始める前。



比べる事で評価がしやすいのが利点です。ということで、まずは予想図と比べてみます。まず気になるのは胴が長過ぎる事、逆に後ろ足は短い事でしょうか。また、首の回りにもう少し毛のボリュームが欲しいところですが、これは仕上げの段階で紙を引き出すなどすればなんとか出来そうです。構造を覚えるのも大変なので、今回は仕上げでカバーします。

問題の胴と後ろ足のバランスの修正方法ですが、展開図を見てみると、後ろ足の構造が独立していて簡単にずらせる事に気がつきました。これを利用してお尻の位置をズラす事で、胴を短く、また同時に後ろ足につかえる紙を少し増やす事が出来ます(図8)。結果、今回はそれぞれの長さを目的の方向に修正する事が出来ました。後ろ足のカドが鋭角ではなくなってしまいましたが、十分な長さがあるので、仕上げで折り込めば問題ないでしょう(図9、写真2)。



写真1 基本形の試作

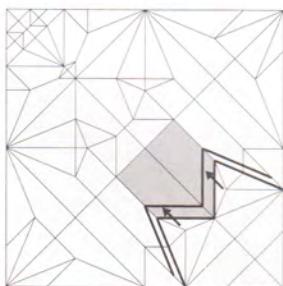


図8 バランス修正。濃い網の部分が胴になる

仕上げ

まとめ

最後に、細かい部分の折り方を決めて仕上げていきます。この工程も実際に紙を折りながら考えるのが一番良いように思います。最初に考えたイメージと、実際に手元にある紙の形を合わせていくのですが、多くの場合なかなか上手くはいきません。基本的には現物の状況を優先しながら、可能な限りイメージに近づけていきます。また紙の厚みなど、この段階にならないと見つけにくい問題も、この段階で解決する事になります。ちなみにこの作例でも、ツノの付け根の部分がずいぶん厚くなってしまい、紙に負担がかかりやすいなどの問題が見つかったため、ほぼ仕上がっていった段階で中心に隙間を空けるという対策を追加して、紙の厚みを逃がすと同時に体の幅を作り立体的になるように仕上げています(写真3、図10)。

今回紹介した手順は、折りたい形が決まっている場合にはとても便利ですが、具体的な形が決まっていない場合にはあまり使えません。また、全体の形や構造の予測を行うのは難しいので、複雑な作品などでは頭部など部分ごとに予測するように応用すると使いやすいかと思います。

さらにもう1つ、良くも悪くも予想通りの形になりやすいので、意外性のある面白い形は見つけにくいという、創作者としては残念な問題もあります。先に面白い形を探しておいて、最初の完成イメージの段階で埋め込むなどの対策は出来ますが、やはり予想外の出会いは少なくなります。

とはいっても、創作効率の良さや応用性の高さなど、上手く使いこなせれば非常に便利な創作手順でもあります。折りたい形が決まっているような時、ぜひ試してみてください。

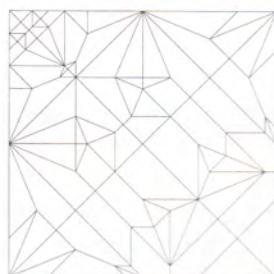


図9 バランス修正後の展開図

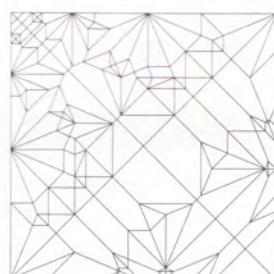


図10 最終的な展開図



写真2 基本形の完成



写真3 完成

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

川村みゆき Kawamura Miyuki

45冊目『すごいぞ折り紙2 折り紙の発想で幾何を楽しむ』阿部 恒・著

Abe Hisashi "Wonderful Origami 2: The World of Geometry with Origami."

〈はじめに〉

2015年6月発行の本書は、『すごいぞ折り紙』(2003年)、『すごいぞ折り紙入門編』(2012年)に続く第3弾として日本評論社から出版されました。先の2冊の内容を発展させた話題と新規の話題を含み、100頁足らずの紙面に中身がぎゅっと凝縮されています。本書に触れる前に、まずは2冊の内容を軽く紹介しておきます。

〈すごいぞ折り紙〉

2003年発行の本書は、まず図の描き方が特徴的です。紙が動く方向を示す矢印が一切使われておらず、頂点や折り目の交点に付けられたA、B、C…などの名称を使ってA点をB点に合わせて折る工程を「A→B」という略記で表記するなど、数学的センスで作られた独自の表現体系を最初の数頁で展開しています。通常の折り図に慣れた人であればあるほど戸惑うことも多いかもしれませんのが、逆にこの部

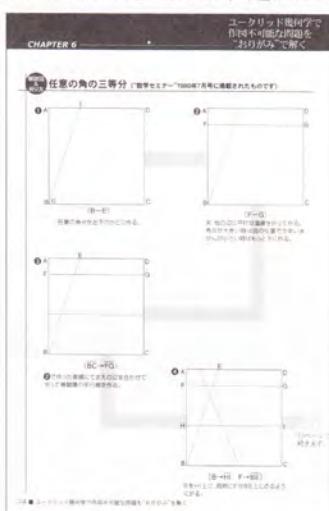
分を最初にきちんと理解しておくことで普段とは違ったセンスで紙の動きを眺められるようになる、いわば意識の切り替えスイッチ的な役割のある部分なのではないかと思います。

その後に続く本文は全6章に分かれています。「作図問題」として正五角形や面積 $1/n$ の正方形の折り出し、紙を切って並べ替えることで証明できるピタゴラスの定理などが具体的な手順とともに解説されています。「一定比率の用紙を使って」では $\sqrt{3}$ を含む比率の長方形用紙を使用した正4、8、20面体の制作や、 $1:\sqrt{2}$ の紙で作る等とちり取り、「正三角形ユニットで作る正多面体」では $1:\sqrt{3}$ の用紙のユニットで作る正4、8、20面体、「正八面体から立方体へ」では正8面体のスケルトンを中心に置き、正8面体、星形8面体(2つの正4面体の複合体)、立方体、と次々と外側に被せていく入れ子状の立体作品の制作、「正二十面体から正十二面体へ」では正20面体のスケルトン(スリットのある3枚のカードで作るもの)を中心に正20面体、星形20面体(側面が正3角形のもの)、正12面体と、これまた入れ子状の立体作品、最終章の「ユークリッド幾何学で作図不可能な問題を“おりがみ”で解く」では阿部氏の真骨頂である任意角の3等分と3乗根の作図がそれぞれ解説されています。また、ユーカリッド幾何学で使われる定規とコンパスは本来は1本の綱であっただろうという主旨のコメントもされており、1枚の紙を使って作図する折り紙との対比が鮮やかに表現されていると感じました。

〈すごいぞ折り紙 入門編〉

2012年に発行された本書は先の

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。



▲『すごいぞ折り紙』の74頁

『すごいぞ折り紙』の内容を一部引き継いで発展させたものに新規の内容を追加したものになっています。折り図は矢印を使った通常の表記に変更されていて、「折り紙の本」としては馴染みやすくなっています。そのあたりを踏まえての「入門編」なのかもしれません。本文は全3章からなっています。「幾何となかよしの”折り紙”」ではユニットで作る正多角形リングや2枚組の正8面体スケルトン、みうら折りやザブトン折りの発展などの解説があります。特に長方形用紙でのザブトン折りはタイトルだけ聞くと不可能なように思えるのですが、定義の拡張により、なるほど!と思える結果になっています。「折り紙で作る正多面体」では先の書籍にあった1枚折り&ユニット作品の正4、8、20面体、ユニットの星形8、20面体および入れ子状になった立体作品のシリーズに加えて、正4面体と正8面体の体積を折紙作品を使って視覚的に理解する方法が解説されています。最後の「折り紙の技法で解く幾何の難題」は先と同じく任意角の3等分と3乗根の作図の解説です。

〈すごいぞ折り紙2〉

3冊目の本書は最初のものと装丁が統一されており、内容もほぼ新規のもので正真正銘の続編といえるでしょう。2冊目と同じく通常我々がよく知っている形式で折り図が描かれていました。

本文は全9章からなります。最初の「展開図から考えて折って作る箱」では縦・横・深さを任意に決めた箱の折り線展開図の書き方と折り方を示しています。

○川村みゆき(かわむら・みゆき)=
本書刊行の直前に阿部氏の訃報
が飛び込んできました。穏やかな
お人柄が偲ばれます。心よりご冥
福をお祈りいたします。



次の「とことん三角形」では三角形の面積の公式や内角の和の求め方を、折り紙的な手法や、時にはハサミを用いて解説しています。

「風船の基礎折りから」では正方形だけでなく、他の正多角形用紙に対して風船の基本形を拡張し、それを使った壺やコースター状のプレート、多角形のリングなどの折り方が紹介されています。

続く「風車の基礎折りから」でも用紙の形状を正多角形に拡張し、風車とたとうの間の構造の関連性について具体的な作例を多数用いて言及されています。

「伝承の重ね箱(枠)からの発展」の章では、底面の大きさを少しづつ変えて折るよく知られた重ね箱の作り方の他に、用紙形を菱形に拡張したもの、ザブトン折りで紙が2重になった部分を使ってフタを折り出すギフトボックスなどが紹介されています。

次の「1/n 正方形の底面を持つ箱」では先の2冊で紹介されていた1/nの面積の正方形を作図する方法を用いて、底面積が少しづつ異なる箱のシリーズを制作します。このシリーズは折り紙愛好家の永田紀子氏が発展させたとの記述があり、既刊書が与え

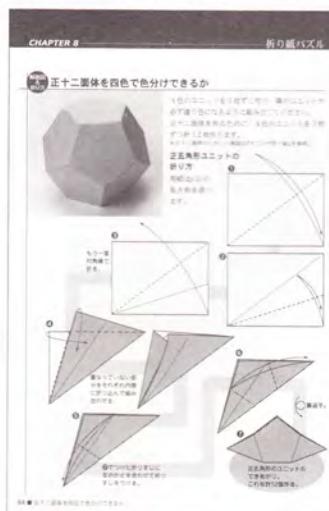


▲『すこいぞ折り紙2』表紙

た影響のフィードバックの一端を見ることができます。

次の「算数・数学の問題を折り紙で視覚的(ビジュアル)に」では、分母の異なる分数を通分する際の視覚的な理解の方法や、変数の2乗や3乗を含む式を具体的な形を伴った面積や体積に置きかえて足し引きすることで方程式を解く方法が解説されています。特に変数の3乗を含む方程式については、特定の辺長を持つ立方体や直方体の折り方を具体的に示し、 $(a+b)$ の3乗がそれを代数的に開いた式とイコールであることを積み木を積み上げる要領で証明していく、その様子は本のカバー部分に1工程ずつカラー写真で詳しく表示されています。

次の章は「折り紙パズル」で、紙を折って面積を1/2にする方法は何通りありますか?という問い合わせから始まっています。正方形用紙だけではなく、正方形の辺の中点から面の中心に向かって切り込みを入れた場合、およびその切り込みが辺長の1/4だった場合



▲『すこいぞ折り紙2』の84頁

についても記述があります。このあたりは本書で答えを見る前に自分で考えてみるのも面白いと思います。また、特定の比率の長方形用紙から作るあの有名な正12面体の折り図も掲載されています。

最後の章は「実用的な折り紙」と題して、八角形(リング)コースター、六角形コースター、豆本の折り図が掲載されていて、それぞれを好みの大きさに作ろうとする時に使用するべき用紙のサイズも記載されています。

<さいごに>

3冊を通読して強く感じるのは、既存の数学を折り紙的な手法で解説する道筋を与えることは、数学を苦手と感じる人に理解への新しい道筋を提供することに繋がる、との阿部氏の信念が全頁に渡って盛り込まれているという感覚です。その道は恐らく可逆で、折り紙から数学に入るのと同様に、数学の世界から折り紙の世界を覗いている人々にも、本書のシリーズは良い道を提供していると思います。

阿部氏による「任意角の3等分」は数学セミナーの1980年7月号が初出とのことで、今年はちょうど35周年にあたります。最近の科学・数学分野における『折り紙』の躍進は目覚ましいものがありますが、その発展が阿部氏によるいくつかの歴史的な仕事に支えられているということに疑いを挟む余地はありません。内容の数学的な重要性だけではなく、そこから生まれる折り紙に対する誇りと自信が今の発展に繋がっているように思われます。前書きにある阿部氏の言葉がまさにぴったり。『折り紙と幾何学の魅力と威力を味わっていただければ幸いです。』

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN



第18回 2枚の正方形から立方八面体を折る Cuboctahedron Out of Two Squares

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探求し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

細矢治夫
Hosoya Haruo

紙でカチッとした作品に挑戦してほしい。厚めの紙の場合は、ふたの寸法を1パーセントほど大きくすることもお勧めである。

- ### 折り方
- ふたになる(a)から先に作る。まず、中点kとlを目印にして折れ線abとcdをしっかりと谷折りする。同様に、mとnを目印にして折れ線efとghも折る。

- その後で、eq, bs, hu, cwの4ヶ所は強く山折りに変える。また、4隅のae, gb等は軽く山折りしておく。
- 次に、ah, de, bf, cgをきっちりと山折りする。
- (a)を開いて、4隅のae, gb等を平らに戻してから、pq, rs, tu, vwを順々にきっちりと谷折りする。それから4隅のp, r, t, v部分を、展開図(a)の折れ線通りに形を整えるとカチッとした立体ができる。た

科学雑誌の老舗的存在『現代化学』(東京化学同人)に“折り紙で学ぶ立体化学”と題して、自分で折り上げながら分子の立体構造、対称性の理解を助ける折り紙の効能を示し、多くの多面体の折り方を紹介した連載があったのは1979年のことである。筆者はお茶の水女子大学理学部化学科助教授(当時)の細矢治夫氏であった。本誌読者の折り紙愛好家の中には『トップおりがみ』(笠原邦彦著、サンリオ、1985)に紹介された2枚組のエレガントな立方体がHosoya's Cubeとして紹介されたのをご存知かもしれない。そのHosoya's Cubeはこの『現代化学』での連載で示されたものだった。多面体折り紙を結晶構造や化学結合の話題とともに紹介する“折り紙で学ぶ立体化学”的ほしんがりでこの2枚でがっちり組める立方八面体が掲載されたが、少々作図にミスがあったとのこと。本コーナーでは36年ぶりに完全版のご紹介である。

注意事項

出来上がりが、1辺8cmの立方体に内接する作品にするためには16cm四方と24cm四方の紙を1枚ずつ用意する。市販の24cm四方の折り紙からもできるが、カチッとした作品にするためには、カラー画用紙が最適。その場合、両面同色のものが多いが、表になる方を決めて、そこに(a)と(b)の作図をする。作図の際は、山折り

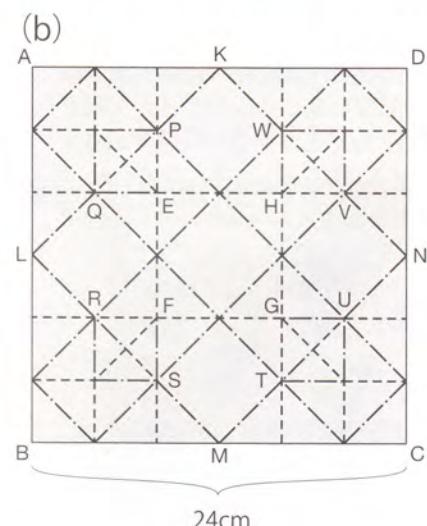
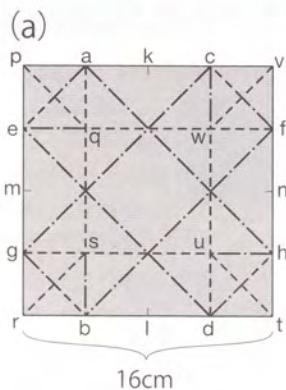
と谷折りの別なく線を引いてよい。

折れ線がカチッとするのでボールペンをすすめるが、間違いのないように線を引くこと。なお、(a)は(b)の中心部分と同一である。

この作品はかなり難しいので、最初は、「ふた」と「身」の組合せの全体像をつかむためのトライアルの積もりでやってみてほしい。そのためにも、普通の折り紙か、それと同程度の硬さの紙がよい。その後で、カラー画用



▲“折り紙で学ぶ立体化学”は写真の1979年9月号から10月号、12月号の3回シリーズ。ここで紹介した立方八面体は12月号に掲載された



○細矢治夫(ほそや・はるお)=昭和11年、西暦で1936(=44x44)年というプロ目生まれが自慢。45x45年位までは長生きしたくて、色々もがいでいます。



だし、裏側の4枚のビラビラが不安定だが、これが後に大事な役を果たす。

- ⑤ 次に、ふたをかぶされる「身」を作る。(b) の3等分線を4本強く谷折りすると、9個の小正方形ができる。
- ⑥ 各辺の中点 K, L, M, N を使って、山折れ線KLMNを折ると座布団ができる。周囲の折れ線は強くしごいておく。
- ⑦ 開いて、PUを通る山線を強く折る。同様に、QTを通る山線も強く折る。
- ⑧ また開いて、WRとVSを通る山線を強く折る。
- ⑨ (b) を開いて、その4隅 A, B, C, D

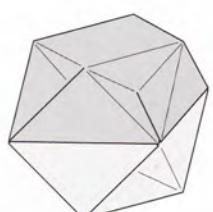
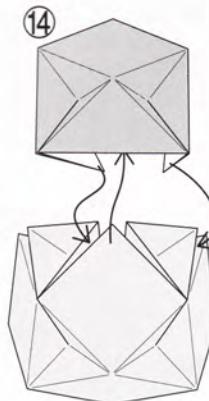
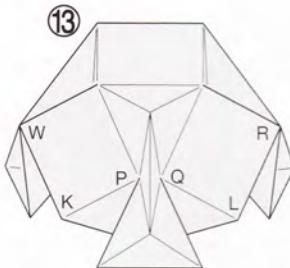
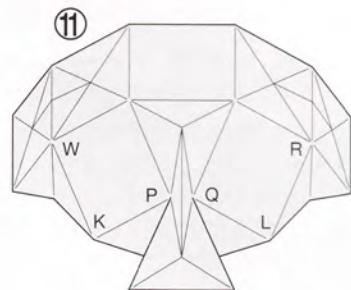
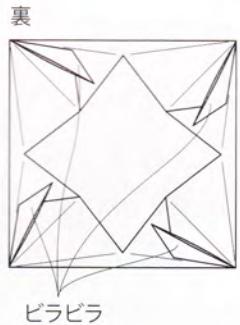
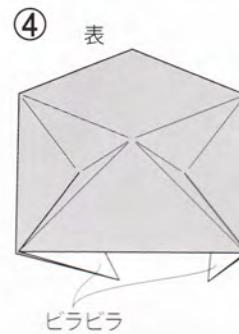
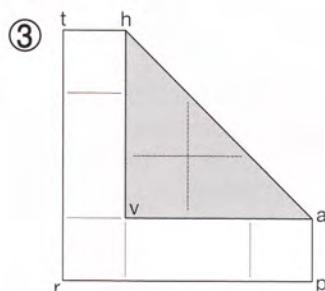
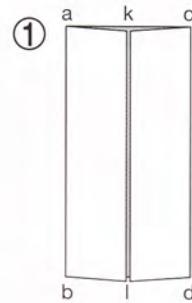
の小さな直角2等辺三角形を山折りする。

- ⑩ A~Eの小正方形の部分の山折りと谷折りの線を、(b) に従って丁寧に折り込む。同じことを、他の4隅の小正方形 B~F, C~G, D~Hについても行う。
- ⑪ PとQが重なるように、紙の裏側からつまむとこの図のようになる。
- ⑫ 同様に、RとSをつまむ。
- ⑬ 更に、他の2箇所も同様に折り込んでいくと、3角形の部分は凹むが、全体がだんだん球状に膨らんでくる。必要に応じて、山折りと谷折りの線をしていてやると、(b) の球状構造は次第に安定化していく。

る。

⑭ 最後に、(a) のふたを (b) の身にかぶせる。この時、凹んだ小3角錐同士が重なるように、またビラビラの差し込みが正方形と正3角形の隙間に入るよう注意する。

この立方八面体をふたと身を異なる色で作ったものを2つ用意して、同色どうしを合わせて重ねてみよう。そこに面心立方格子の単位胞が現れる(“折り紙で学ぶ立体化学”記事より)。折り紙は確かに良い教材になる。本稿編集のために1979年の現代化学をお預かりしたが、他の記事含め思わず読み入ってしまった。(西川)



完成図

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史（P.20-21）

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojo Takashi (P.20-21)

展示作品、コンテスト作品、懇親会の話題、どうしても途中でわからなくなる折り図…。たまりに溜まったネタを持ち寄って盛り上がるコンベンションはもうすぐ。長旅のかたもご近所のかたも、道中お気をつけて!

「V字135°+トライアングルプリーツ」

「V字135°+菱」作：布施知子（P.4）

V-Shape 135° Modules with Triangular Pleats, V-Shape 135° Modules with Diamond Shape Patterns:
Fuse Tomoko (P.4)

■新たな装飾部品を合体させることで、大きく印象が変わるユニット作品。今回の作例は、心地良いリズム感のある上品な仕上がりとなっています。追加部品に曲面を使ったり大きさをさまざまに変えたりして、不規則なイメージ・とんがったエネルギーを盛り込むのも面白いかもしれません。



「アサガオ」作：やまぐち真（P.8）

Morning Glory: Yamaguchi Makoto (P.8)

「サンタクロースの箸袋」作：稻吉秀尚（P.11）

Chopstick Wrapper (Santa Claus): Inayoshi Hidehisa (P.11)

■アサガオは最後の立体化工程が少々難しいのですが、きれいに整えれば存在感が大幅にアップします。さらに、工程の途中状態は平面作品のアサガオとしても使用可能。

箸袋には細かい加工や「ぐらい折り」の工程がいくつか含まれているので、ある程度の練習が必要。大きめの紙で何度も折って感覚をつかんでから、箸袋サイズに合う紙にとりかかるのが良いでしょう。



「バイオリン奏者」 作：森澤碧人(P.37)

Violinist: Morisawa Aoto (P.37)

■題材を素直に解釈し、可能な限り「そのものの構造に近い構成」のカド・部品を用意する。「実際には長くないものを、長いかのように見える」といった方向性の技術をあまり使わず、正面からストレートに課題に立ち向かっている様子が感じ取れます。ここからさらに、どのような要素を身につけて「化けて」ゆくのか、非常に楽しみな手のひとです。



「ファイアリードラゴン ver.2」

作：ケイド・チャン(P.26)

Fiery Dragon ver.2: Kade Chan (P.26)

■全身のすみずみに施された、計算し尽くしたかのような怒濤の仕上げ加工。その作業を折り図や動画で詳細に説明しようとしても、それはあくまで「そのときにおこなわれた作業」の再現になってしまいます。ひとつひとつ作品をつくるごとに、紙の種類や折り精度の違いによって、仕上げに必要な作業も微妙に変化してゆくはずだということを、常に考えながら取り組むことが必要だと思います。



「ヒツジ」 作：神谷哲史(P.13)

Sheep: Kamiya Satoshi (P.13)

■展開図的な構造構築から始めるか、完成形デザインのおおまかなところをイメージするか。はたまた、まったくの行き当たりばったりにしてみるか。スタート地点・主眼を置くところはさまざまですが、最終的にこれらの要素が混じって、渾然一体となってからみあってくるのが創作の醍醐味。本作の解説記事で、神谷氏がたどった考え方の流れを追ってみましょう。(編注:「ヒツジ」の折り図は『第21回折紙探偵団コンベンション折り図集』に掲載されます)



OrigamiUSAコンベンション2015より(P.39)

From the 2015 OrigamiUSA Convention (P.39)

■長年会場となってきた、マンハッタンの中心にあるFIT(Fashion Institute of Technology)のキャンパスを離れて、今年は少し郊外にあるManhattan Collegeでの開催となった。

Oversize Folding



▲川村みゆき氏、石原由美子氏、伊藤晴美氏、

▲完成したチームから壇上にのぼり、審査員や
観客に向かってプレゼンテーションをする

Teaching Classes



▲バーニー・ペイトン氏の講習は若者に人気がある



▲マイケル・ラフォース氏の講習は、作品もさることながら、そのトークも魅力

Pin Trade



▲今年は特に時間や教室を設定せず、持っている人を見つけたら各自で
交換するという方式。宝探しのような感覚で楽しむことができた



▲土曜日の夜、メイン会場で行われたゲーム。制限時間内で正方形の紙を素手でなるべく長く切ったチームの勝ち

SNAIL Model Menu



Bernie Peyton



Matthew Green



Ryan Dong



Michael LaFosse



Seth Friedman

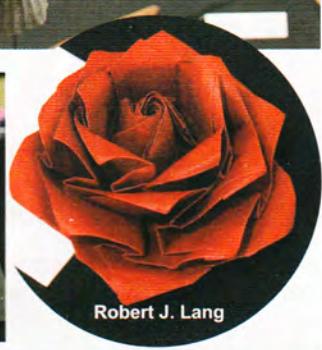
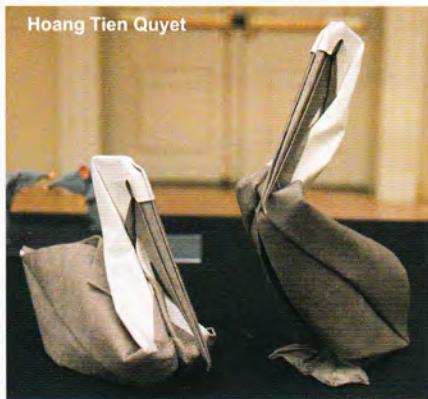
やはり、コンベンションのメインは折り紙教室。NYでは同時に25~28の講習が開かれ、土日の2日間で最大10コマの講習に参加することができる。

ATC Swap



▲第10回目となる交換会は、参加人数がちょっと少なめであったが、なかなか個性的なカードが集まつた

Exhibition



NYコンベンションの作品展示は、皆、自分の作品をいかに良く見せるか、展示方法の工夫が多く見つれる。ホアンティンクエット氏の作品と共に、ベトナムオリガミグループの作品も展示されていたが、そのクオリティの高さは観覧者の目を引いていた。

第5回折紙探偵団九州コンベンションより(P.41)

From the 5th Origami Tanteidan Kyushu Convention (P.41)

■今年のゲストは地球の反対側、ブラジルからイサ・クライン氏を迎えた。九州友の会は大半が女性で、彼女の熱心なファンも多いことから、満を持しての招待となった。(写真協力:折紙探偵団九州友の会)



▲講習風景。丁寧に説明してまわるクライン氏



Isa Klein



Isa Klein



▲九州友の会といえば、Origami ATC! 今年も力作が揃った



Isa Klein

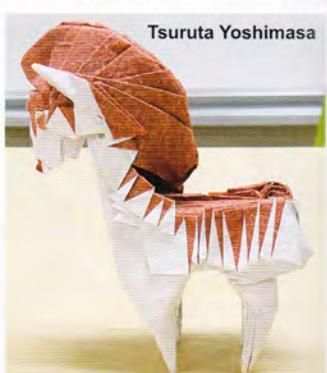
▲クライン氏の作品は、紙選びもさることながら、付属のビーズやスタンドにもセンスが光る。針金のスタンドは全て自作とのこと



▲左から、九州大学折紙同好会ORUTOの吉武氏、西村氏、鶴田氏と広島大学の仮屋薙氏



Nishikawa Seiji



Tsuruta Yoshimasa



Kitanishi Kazuki

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of Origami Tanteidan Tokyo Group



Imai Kota



Komatsu Hideo



Nakamura Kaede



Yoo Tae Yong



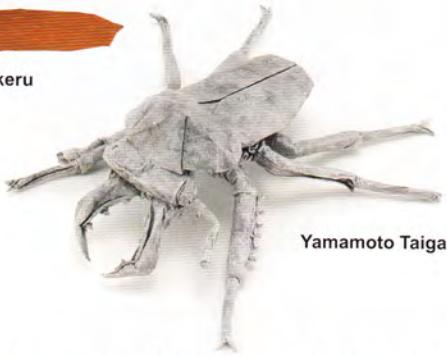
Konishi Kakeru



Watanabe Dai



Yoo Tae Yong



Yamamoto Taiga

Origami ATC研究会より(P.40)

To the Participants of the Workshop for Origami ATC (P.40)

■ATCとは、アーティストトレーディングカードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回程度、開かれている折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。8月の折紙探偵団コンベンションでは、Origami ATCの展示と交換会の開催を企画している。今年のテーマ部門は「和」(自由部門も有り)。詳細は、コンベンションの受理票に同封のほか、webでも公開予定だ。コンベンションに参加できない方のために、郵送の参加も受け付けているので、右の「郵送参加方法」をご覧いただきたい。

6月11日の交換会の作品から。テーマは「Happy(ハッピー)」。以下敬称略。



「恵みの雨」／川崎亜子・作
使用作品:
あじさい(藤本修三・作)
かたつむり(半田丈直・作)



「法被でハッピー」／
山本千佳子・作
使用作品:法被(ブティック社
「暮らしの折り紙」より)



「ずっと仲良し」／高智千鶴・作
使用作品:ねぐらはーと(おりがみ
くらぶ)、Blossom heart(作者未詳)

この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)▶

次回Origami ATC交換会:2015年8月16日(日)の
郵送参加方法(8月10日必着)

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:和(和のつく熟語や和から連想するもの)
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入のこと。できれば作成日やコンセプトも書くとよい。

◆応募方法

- ・Origami ATCを3枚(1口分)作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封して、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title: 大輪のバラを君に。

Name: スタッフhanako

HP, ブログ: スタッフhanakoの
おりがみはうす日記

<http://ameblo.jp/hanako-origami/>

作品について 折り紙の名いき作品登録

バラ(山口真作)

「すてきな花の折り紙」(PHP)より

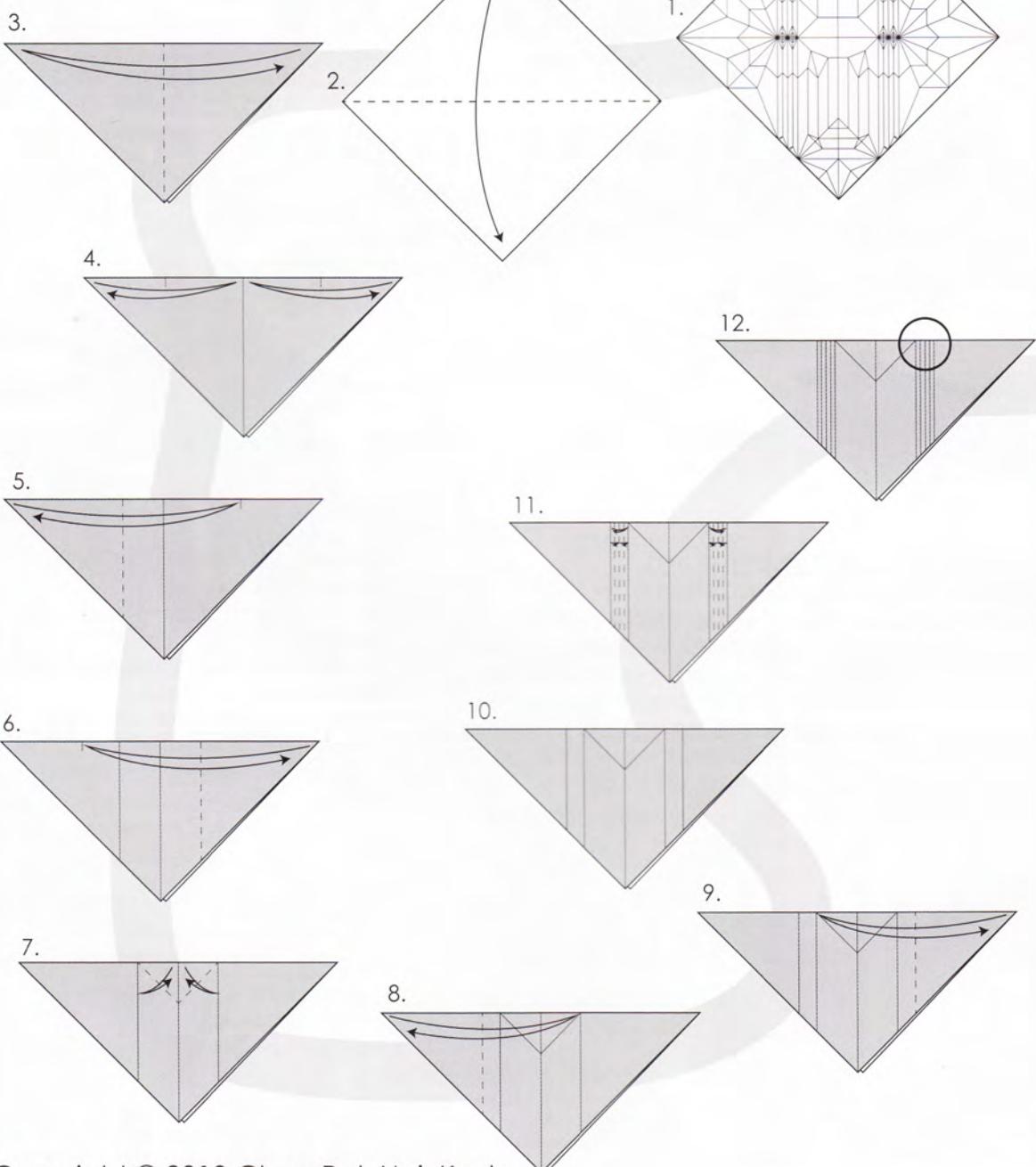
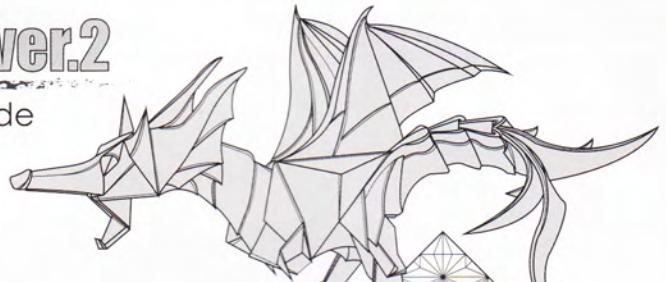
2014年1月15日

▲裏面表記の例

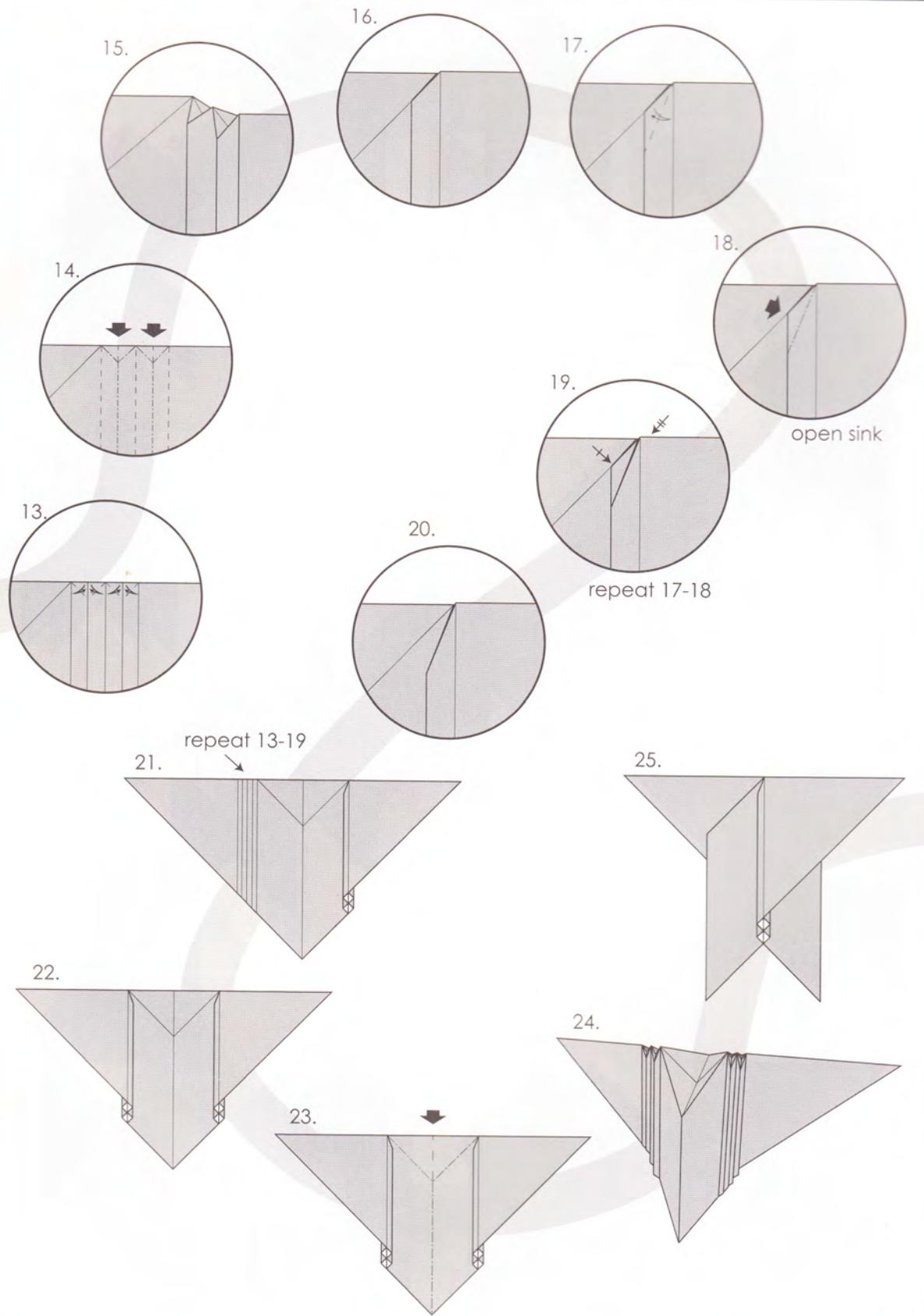
FIERY DRAGON ver.2

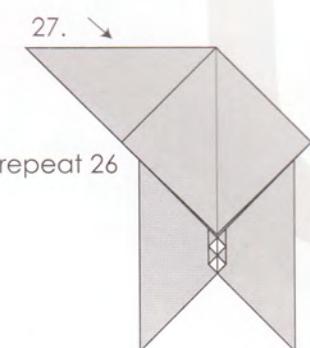
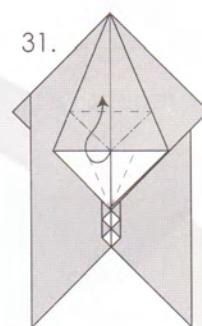
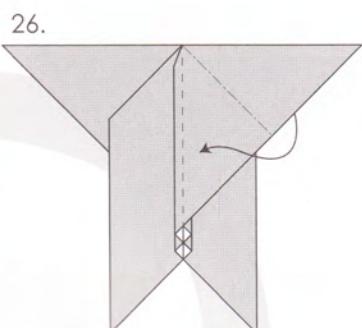
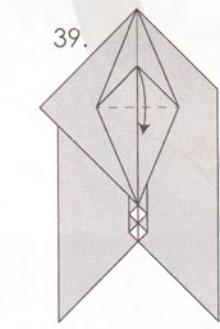
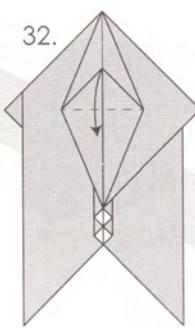
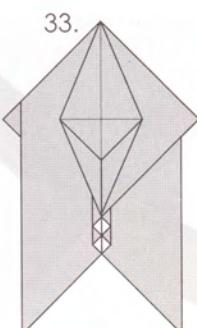
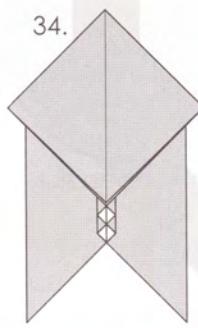
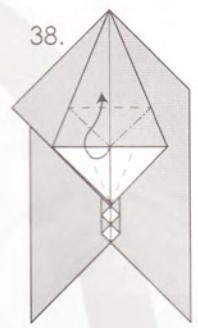
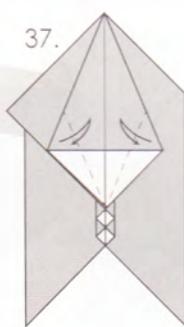
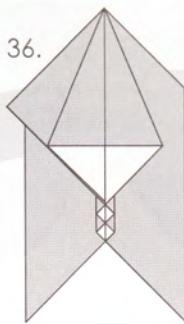
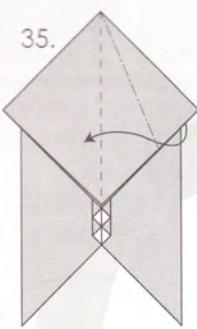
Designed by : Chan Pak Hei, Kade
(Hong Kong)

Kade Chan Origami Studio :
www.kadechan.com

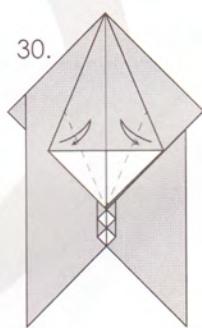
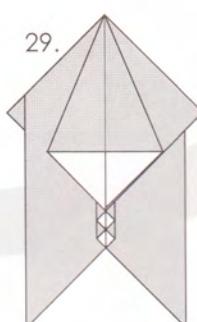
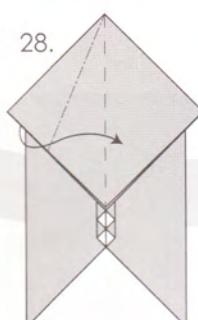


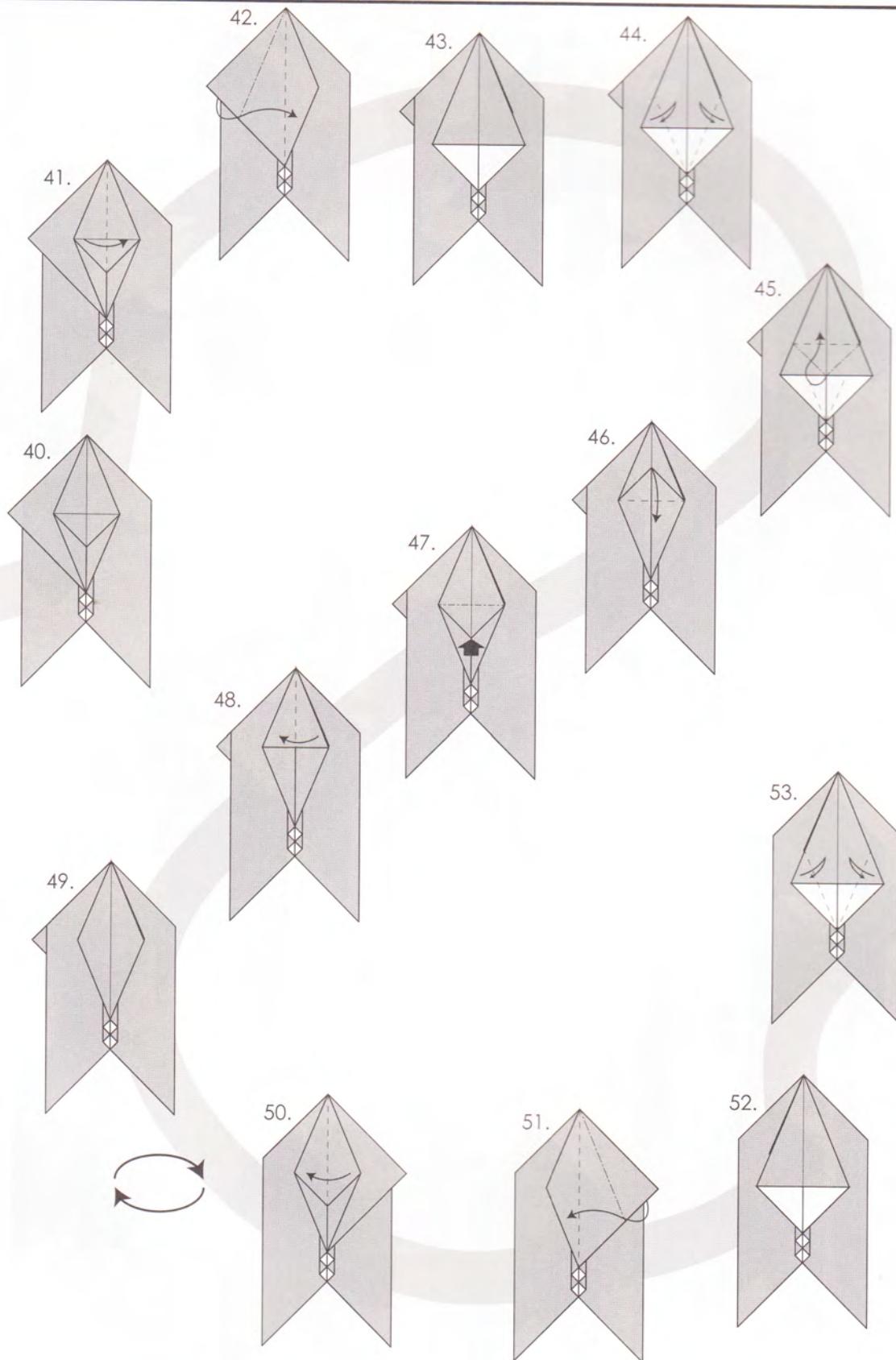
Copyright © 2013 Chan Pak Hei, Kade

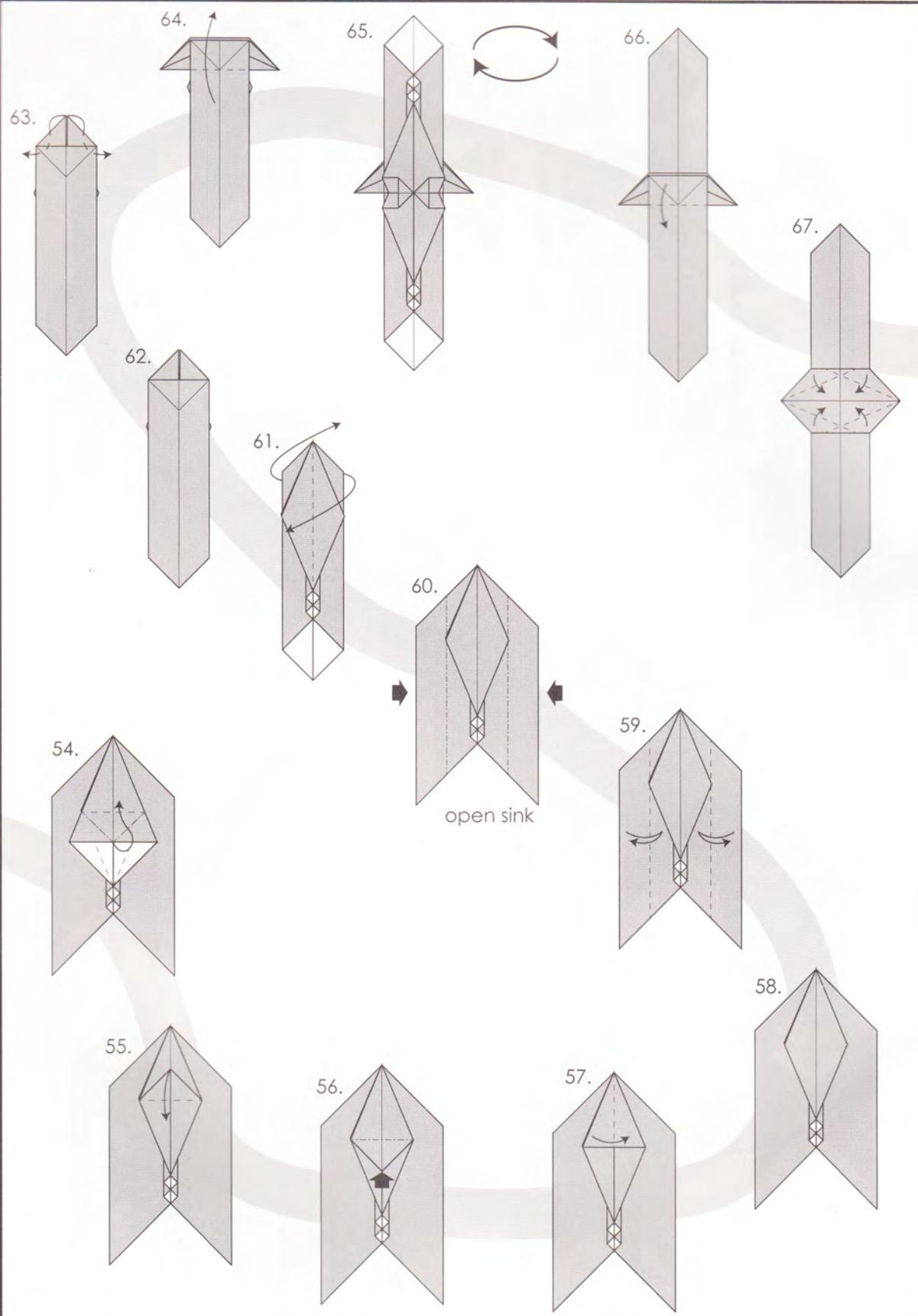


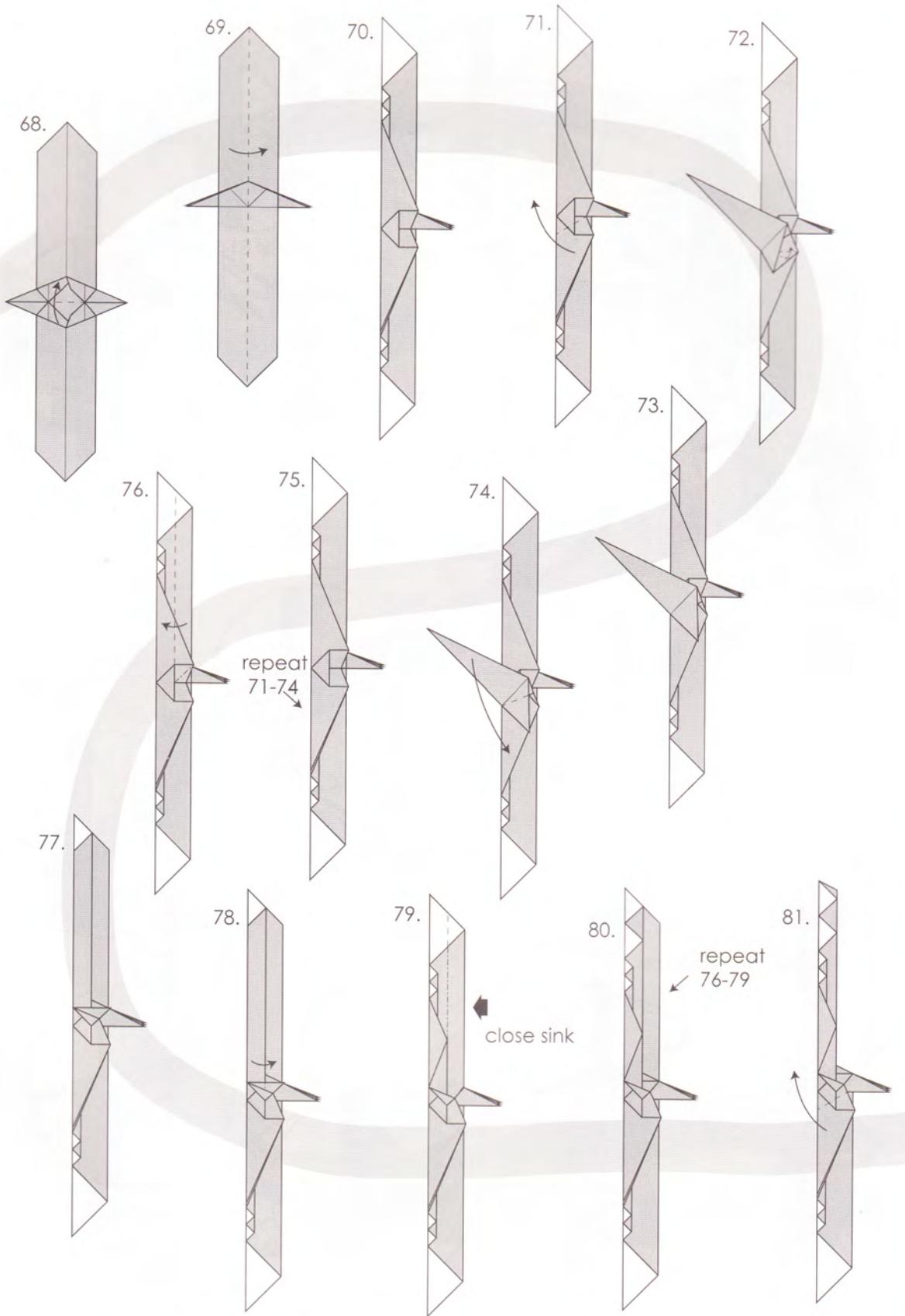


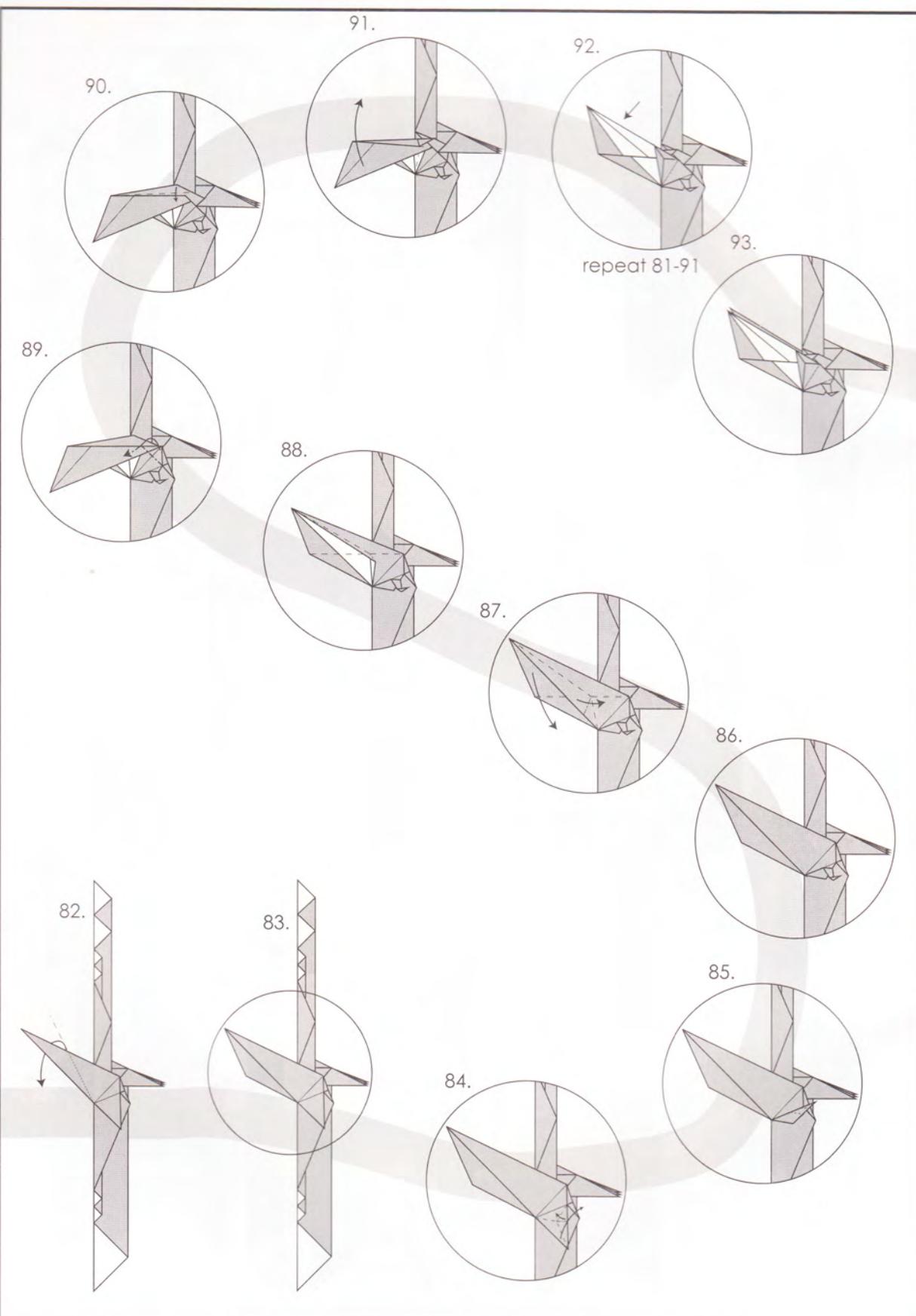
repeat 26



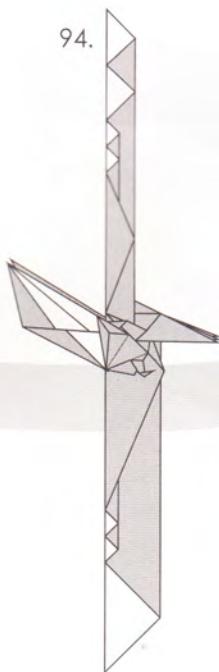




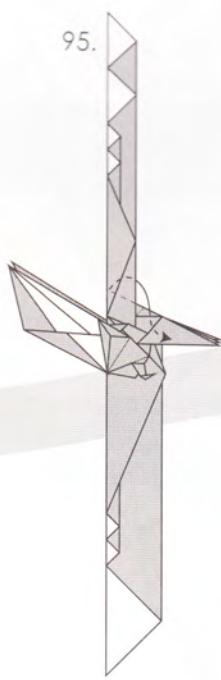




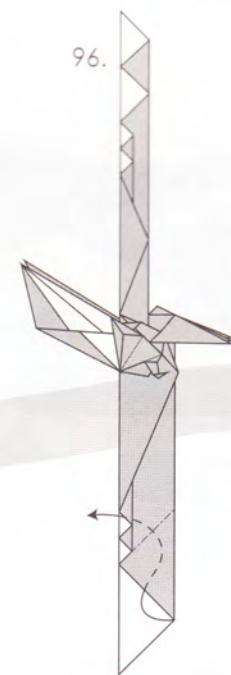
94.



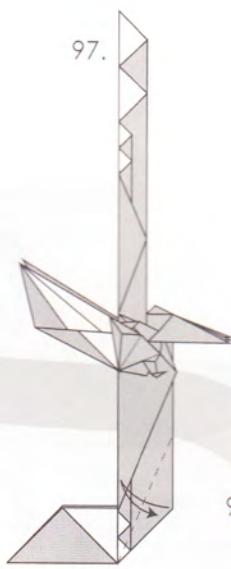
95.



96.



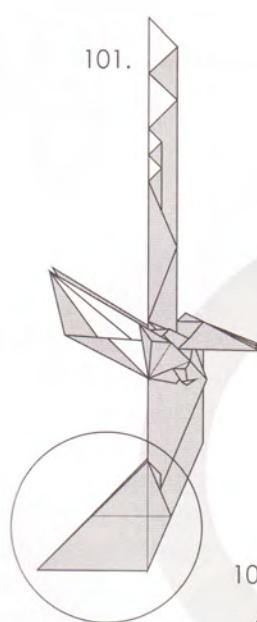
97.



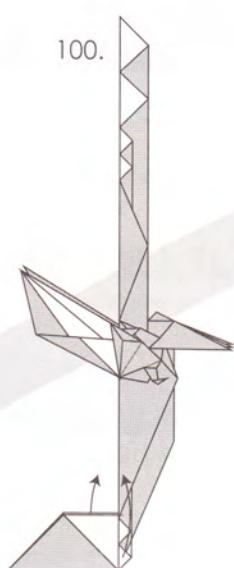
98.



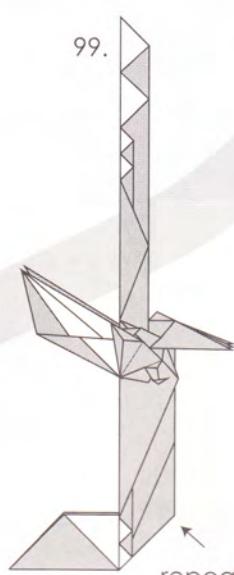
101.



100.



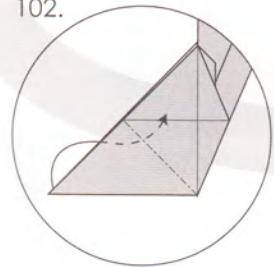
99.



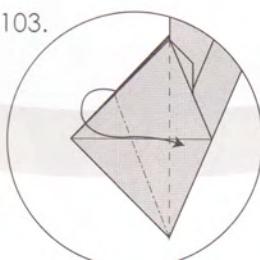
open sink

repeat 97-98

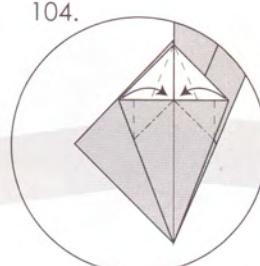
102.

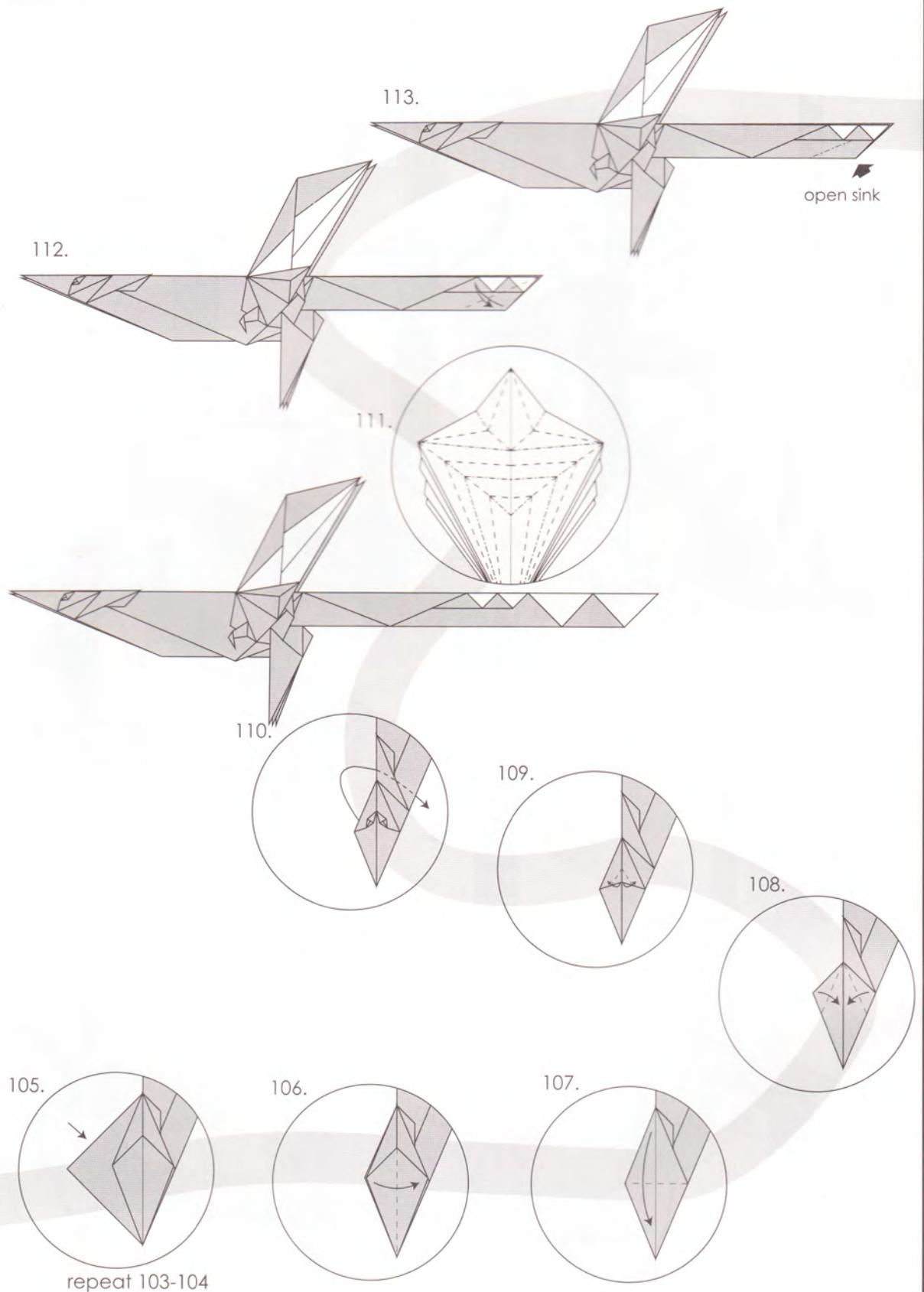


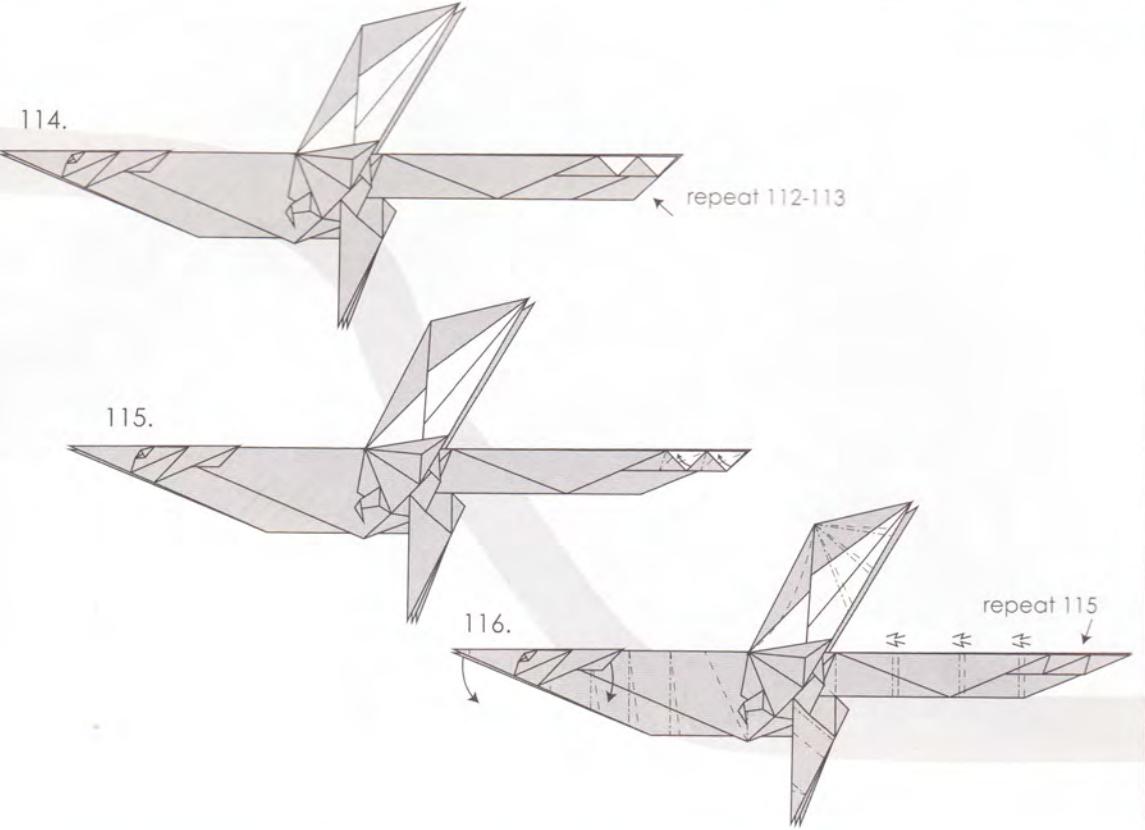
103.



104.







Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙と私の関係

Origami and My Life

鶴田芳理

Tsuruta Yoshimasa

なんという趣味を持ってしまったのでしょう。趣味としてはあまりメジャーでなく、複雑なものになると気づけば数時間が経っている。そんな楽しい折り紙と私の関係について書かせて頂きます。

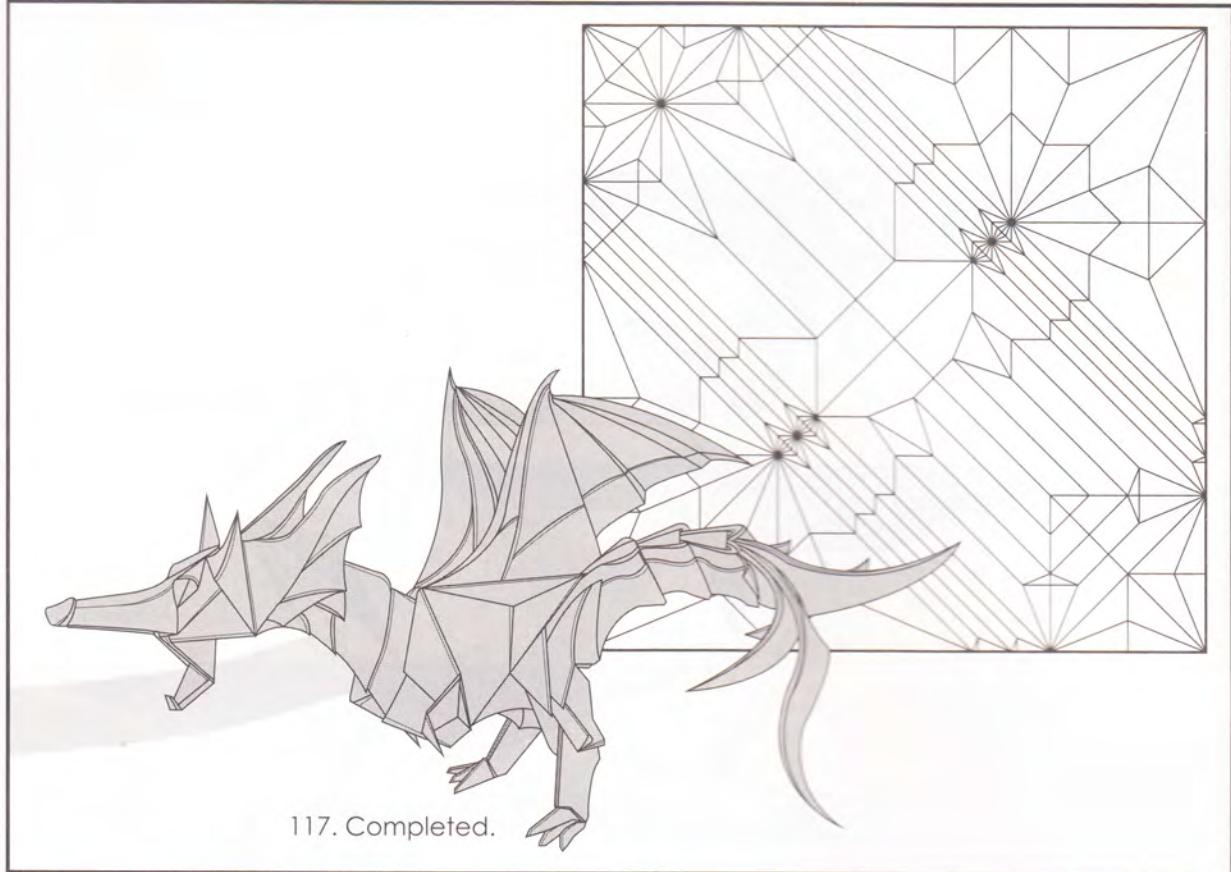
初めて折り紙にのめり込んだのは幼稚園の頃でした。山口さんの『たのしい折り紙全集』の作品を、我武者羅に折っていた記憶があります。それから暫くは折り紙を離れ、様々な趣味を持っては飽き、というのを繰り返していました。そして再び折り紙に熱が入ったのは、12歳の時でした。きっかけは某テレビ番組で、その年のうちに『神谷哲史作品集』を購入。その流れで東京コンベン

ションにも参加しました。当時の小遣いはほとんど紙と本に消えていましたが、両親は何も言わずに好きなようにさせてくれました。ただ勝手に部屋を掃除されて無くなった試作品は数知れず。母さん、あれはゴミじゃないんだ。

年月が経ち、いつからか自然と創作をするようになりました。自分で新たなものを生み出すことが、次第に自己実現の欲求となっていました。しかし、周りを見渡して出来た作品に良いものはありませんでした。そこで、最近ではコンベンションに加え、九州友の会、九州大学折紙同好会ORUTO、JOAS創作折り紙コンテスト、WOD (World Origami Days)、折り

紙サークルネットワークといった折り紙関連のイベントに参加するようになりました。その中で新たな人と作品に出会い、多くの刺激を受けました。他人の作品を見ることは自分の成長にも繋がるでしょうし、そのような機会があることは非常に有り難く、重要なことだと思います。

折り紙が恋人、と言う人がいます。なるほどと思いました。確かに奴は、時間と心を簡単に奪っていきます。うまくいかずに破れることもあります。しかし私は、そんな折り紙とのこれからが楽しみで仕方ありません。新しいことをどんどんしていくと思います。因みに、裏表のある相手なので気を付けましょう…。



折紙三昧⁽⁷⁶⁾

Origami-Zanmai (This Origami and That)

今年も夏のコンベンションが近づいてきました。6OSMEがあった去年の記念大会から、あっという間に1年が経ったという感じです。探偵団25年、コンベンションも20回を超え、JOASも新しい体制を模索しなければと、日々議論を繰り返しています。

さて、21回の夏のコンベンションから少々参加費の変更をさせていただきました。変更の趣旨は、コンベンションに参加する方のうち、折紙探偵団マガジンの購読者または日本折紙学会の会員の方の参加費とそうでない方の参加費について少々差をつけさせていただいたことです。表に典型的な第19回のコンベンション参加者のバランスを示します。

一般	会員または購読者	135
	上記以外	85
学生	会員または購読者	46
	上記以外	79
海外		15

表 第19回折紙探偵団コンベンション
参加者のバランス

もともと、折紙探偵団コンベンションは会員・購読者・非購読者の別なく参加可能なイベントとして企画スタートしていましたが表からわかるように会員でも購読者でもない方の比率がほぼ半数となっています。日本折紙学会の運営は会費と購読料で成り立っています。コンベンション多くのボランティアに支えられて運営していますが、やはり出来ることなら普段から日本折紙学会の運営に支援をいただきたく、コンベンショ

お願い

JOAS Membership and Convention Fees

ン参加者の会員比率を上げたいと願っています。一方、表をもう少し詳しく見ると、学生さんの会員・購読者率が低いのがよくわかります。一般に学生さんが経済的に厳しい状況にあることは想像の出来ることです。従つて今回のコンベンションの学生参加費は、会員または購読者は値下げするという方向での改定にしました。

上記のような考え方での変更ですので皆さんのご理解をいただきたいと思います。また、この改定により受付時の会員・購読者の確認作業などが煩雑になっており少々混乱があるかもしれません、あわせてご理解いただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

第96回

バイオリン奏者

Violinist

森澤碧人

Morisawa Aoto

Created: 2015

Paper Size: 60cm×60cm

Height: 20cm

「バイオリン奏者」といわれると大抵の人は北條高史氏の作品を思い浮かべるのではないかでしょうか。氏の「バイオリン奏者」は折図化もされており、蛇腹の創作を始めとする人の足がかりとなるような作品となっていて蛇腹をする者のほとんどが一度は折ったことのある作品ではないでしょうか。自分も例に漏れず、氏の作品から様々なことを学びました。ある程度の経験をつんで自分なりの創作ができるようになった今、同じ題材を折るということは自分にとっての挑戦でした。

蛇腹を使って創作するにあたって大きな方針が2つあります。それは蛇腹のヒダを見せるか見せないか。北條高史氏の作品は前者であり自分の作品は後者であるかなと思います。この方針を決めきれずに作品のあがりが汚くなっている例をよく目にします。自分は創作当初からヒダを極力見せないように意識てきて試行錯誤を繰り返してきました。この作品では首もとにそれが行えなかったのが心残りです。

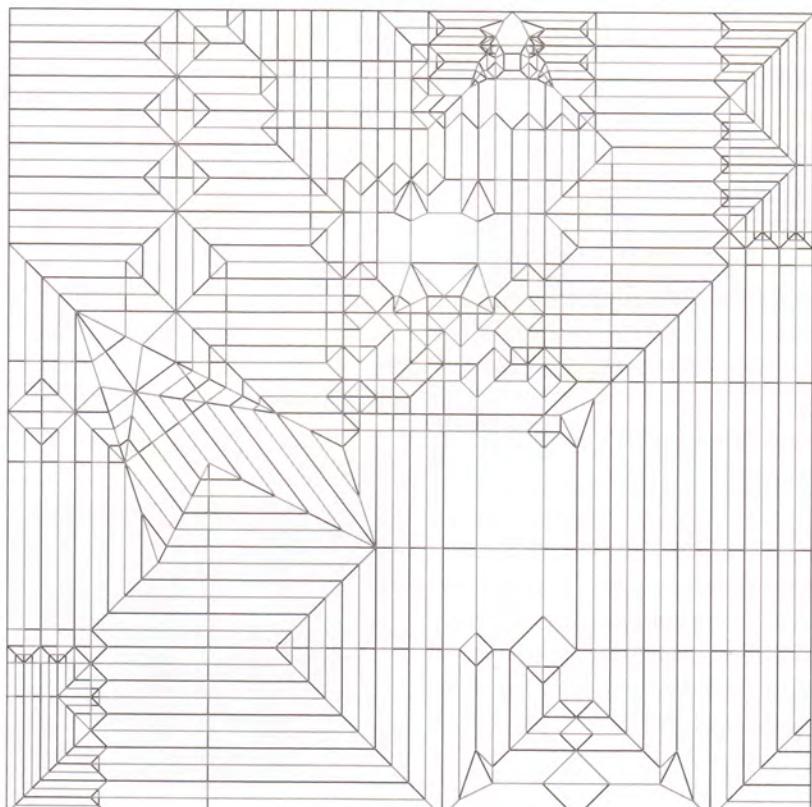
この作品を掲載していただくことになり、せっかくの機会であるのでバージョンアップを施しました。行ったのはプロポーションの見直しと右腕に余り気味であった紙を左脚への移動です。変則的な神谷パターンを盛り込んだのもこの段階です。この手の特



殊な構造はあくまで構造であり造形に直接コミットするわけではないのであまり興味はありませんでしたが使うとやはり便利なようです。

展開図中央の胸部から折り進めるのが良いかと思います。この部分以外は大して悩むことはないのではないでしょうか。バイオリンの弦は左腕から、本体は首もどから生えてきます。

頭部は前髪、横髪、後髪がそれぞれ出てくるのでボリュームのある頭部造形がしやすいかと思います。作例でも中に紙玉をいれてボリュームを出しています。スカートのヒダを広げて一周巻けば完成です。主にスカートに大きな面があるので、その部分に蛇腹の格子の折り筋をつけないようにしましょう。



伊藤晴美

Ito Harumi

Kawamura Miyuki

取材：川村みゆき

■折り紙を始めたきっかけは？

折り紙遊びは子どもたちとしていましたが、意識して触れるようになったのは国立病院の重症心身障害者病棟に子どもたちと月に1回訪れるようになったことがきっかけです。生涯をその病棟内で過ごされる方々を訪ねることで、人が生まれてきたことの価値と、障害がある人も命の重さは同じであることを痛感しました。そのときは折り紙でお土産を折り、子どもたちと歌を歌ったりして過ごしました。その後、図書館からの依頼で絵本の主人公を折り紙で折って紹介するボランティアをしました。著作権について細かく言われていなかった時代で、主人公を創作するのはとても楽しかったです。そこでは後に他の作品も教えるようになりました。

■今はどんな活動をされていますか？

現在は1ヶ月に7回、地元の公民館などで講習をしています。その他に県や市や教育委員会などからも依頼があります。市のボランティア派遣登録もしていますので、学校のゲストティーチャーやその他要請にも対応します。

■活動で印象に残っていることは？

初めての海外コンベンションのBOSでデビッド・ブリルさんにお会いしたことは何ものにも代えがたい興奮と緊張感でいっぱいでした。お茶を飲みながらニコニコ優しい笑顔で折り紙を楽しむブリルさんが印象的でした。活動で印象に残っているのは東日本大震災の復興支援「～絆～プロジェクトおおむた」の企画で被災地を4回にわたり訪れたことです。南三陸町で

○伊藤晴美（いとう・はるみ）=1960年、熊本市生まれ。『子どもの居場所』から『美術館』など多岐に渡り日本の伝統文化、折り紙の普及と拡散活動中。日本折紙学会指導員、日本折紙協会講師、日本折紙協会筑後支部長。



伺った伊里前小学校では、伊里前小と津波で学校がなくなった名足小の2つの入学式が行われていました。持参した作品や手紙を慌てて2つに分け、それぞれに渡したことを覚えています。仮設住宅が立ち並ぶ校庭の僅かに空いたスペースで遊んでいる子どもたちが印象的でした。松島市では伊達政宗公の菩提寺で知られる国宝瑞巖寺の境内に「祈りの鶴」を飾らせていただきました。6mの紙で折った3種の鶴を九州からトラックで運び、5色の青（東北の海の色）で瑞巖寺の観光客と一緒に折った鶴を九州から持ってきた笹に飾りました。この鶴の笹飾りは鎮魂や希望、人々の想いと共に飾られ、「鶴を飾ってくれてありがとう」とのお礼の言葉は今も私の心にしっかりと刻まれています。

モナコ公国に親善大使として行ったときはレーニエ大公ご逝去の報に接し川崎敏和氏の「桜玉」を作成し持参したことでも心に残る思い出です。私に『折り紙』の心得があったからできたこと……。心から折り紙に出会えてよかったです。

■海外コンの参加は多いのですか？

今までにBOS、韓国、OrigamiUSAは2回参加しました。



▲第3回九州コンベンションでの講習

今年もNYでは各種イベントに参加。ATCやピンは日々内職のようですが、会場での交換はとても楽しいですし、いろいろなアイデアやデザインのものがあり私の宝物です。オーバーサイズ折り紙は3mの紙で作品を折り発表しました。今回は川村みゆきさん、アン・ラヴィンさん、石原由美子さん、伊藤の4人で、「ウシ（川村みゆき作）」をダントツ一番の速さで折り上げました。また今回はオンライン生中継の講習があり、視聴には有料の事前申込が必要なもの「世界中いつでも、誰でも、どこでも折り紙が楽しめる（マルシオ・ノグチさんの言葉より）」画期的な企画で、コンベンションの進化を感じたところです。「東京コンベンションに参加しますよ」と声をかけてくれる人もあり、折り紙という共通語に触れ感謝です。私自身九州コンのスタッフなので、主催者側の目線でいろいろなコンベンションに参加することはとても勉強になります。

■今後の目標は？

現在の私は折り紙伝道師ということころでしょうか。一枚の紙が立体化していくOrigami Magic! 初めて折り上げた川崎ローズのあの感動を沢山の人に味わっていただきたいし、作品を通して作者の想いや人柄も伝えていきたいです。著作権や知的財産に関わるマナーなど、折り紙を広く楽しむためのルールを伝えていくのも折り紙伝道師の役目ですね。指導員の特権!?を活用し、様々な折り紙作品を沢山の人々に伝えていこうと思いま



▲広くてきれいだった、今年のホスピタリティルーム

NYコンベンションの会場として長年慣れ親しんだ、ファッション工科大学(Fashion Institute of Technology(FIT))が使えなくなり、今年は別の大学キャンパスを借りての開催となった。場所が変わって上手くいかないことも沢山あったようだが、大学の設備を上手く利用したサービスや新しい試みも見られた。

◆OrigamiUSAコンベンション2015レポート

山口 真

●インターネット通信が便利

筆者がまず便利に感じたのは、キャンパス内でインターネット通信(Wi-Fi)が誰でも簡単に繋ぐことができるようになったことだ。新会場の「マンハッタン・カレッジ」の敷地内にいれば、回線を選ぶだけで繋がる。今年は、ホスピタリティルーム、作品展示会場、講習の教室、学食などが、別々の建物で移動が大変だったが、LINEを使えたので、日本から一緒に参加した人達同士の連絡を簡単にとることができた。

インターネット通信は、非常に興味深いことにも使われていた。折り紙講習の中継である。カメラを使って、遠方にいる講師からライブ中継で折り紙講習を受けたり、逆に会場にいる講師の講習を、遠方にいる人がライブ中継で受講するという試みだ。受講には1講習5ドルの参加費が必要だったが、全世界から数十人の参加があったようだ。ロバート・J・ラング氏の講習を例に挙げると、ラング氏が折り進めるところを書画カメラで写し、その映像がネット参加者に届けられる。画面は3つに分かれている、映像が

流れるウインドウと、右側にログインしている人のリスト、下にはチャットのためのウインドウが開いている。ちょっと分かり辛かった、という場合は、ここに文字を打ち込んで質問することができる。するとこの企画の担当者であるマルシオ・ノグチ氏が答えてくれる仕組みだ。

ライブ中継は、講習だけではなかった。コンベンションの目玉の1つである、折り紙作品展示会場もライブ中継で公開された。ラジオのディスクジョッキーの経験があるというルーザン・ベスマン氏のトークで、会場の様子と作品が全世界に向けて(要登録)、紹介されたのだ。ベスマン氏がマイクを持ち、そのマイクが繋がっているパソコンをマルシオ・ノグチ氏が持ち、そのパソコンに付属のカメラで作品や会場を映していた。1時間強にわたる折り紙作品展の中継は、ベスマン氏の軽快なトークで飽きることなく見ることができた。

このほか、6月21日(日)の夜に開催されたオーバーサイズ・フォールディングという巨大折り紙大会の様子も、2台のパソコンカメラを使ってライブ中継され

ていた。

作品展示とオーバーサイズ・フォールディングの様子は、現在下記サイトで誰でも見ることができるようだ。

https://origamiusa.org/convention2015_galleries

●学食

遠方からの参加者の多くは、この大学の寮に宿泊していた。3食付きなので、朝、昼、夜と学食を利用する。ビュッフェ形式となっており、メニューは豊富で味も悪くなかった。セルフサービスでソフトクリームも食べることができた。

●総会

6月20日(土)には、ホスピタリティルームでOrigamiUSAの総会が開かれた。今年は設置された大きなスクリーンに、議題や関連写真が次々と映され、英語が聞き取れなくても内容を知ることができた。

●作品展示

FITに引けをとらない広い会場で、様々な作品が並んだ。

●オーバーサイズ・フォールディング

筆者は審査員として参加。今年は子どもが多く、やや雑な作品が目についた。

以上が、筆者が参加してきた、新しい会場でのNYコンベンションである。前より良くなったことは一杯あったが、勝手が違うので、戸惑うこともあった。運営側にも混乱がみられ、さぞかし大変だったことと思う。来年はより良いコンベンションになることを期待したい。(編注: カラーページP.22~23に関連写真掲載)



▲遠方にいる講師がカメラの前で講習する



▲遠方にいる参加者も同じ画面を見て受講

◆第21回折紙探偵団コンベンション直前情報

月日の経つのは早い。昨年の6OSMEと第20回記念大会の開催から1年が経とうしている。今年は例年のスタイルに戻って、ゲストを2人(ジャン・ディン氏、シュウキ・カトウ氏)迎える予定だ。このほか、今年は香港の若手作家ケイド・チャン氏や、ドル札折り紙のウォン・パーク氏なども一般参加で来日予定。なかなか豪華な顔ぶれが揃いそうだ。

3日間の予定は、現在のところ以下のようになっている(やむなく変更になる場合あり)。

●8月14日(金)

特別講演会(聴講無料)

13:30~17:00

予定講演者:

斎藤一哉氏(東京大学生産技術研究所助教)、ジャン・ディン氏(吉野一生基金招待者)、シュウキ・カトウ氏(吉野一生基金招待者)

※講演会終了後に参加受け付けを予定

●8月15日(土)

折り紙教室、懇親会

09:00~ 参加受付開始(1102教室)

10:00~ 教室受付開始(1101教室)

11:00~全体会(1102教室)

11:30~13:10 昼休み

13:10~17:00 折り紙教室

18:00~21:00 懇親会(希望者のみ)

●8月16日(日)

09:00~ 参加受付開始(1102教室)

教室受付開始(1101教室)

10:40~折り紙教室

12:30~13:50 昼休み

13:50~16:20 折り紙教室

16:30~全体会・コンテスト結果発表・折り紙アイテムオークション

●講師募集について

講師を引き受けてくれる方が不足している。8月4日(水)まで受け付ける(定員になり次第締め切り)ので、ご希望の方は下記フォーマット又はメールにてお申し込みいただきたい。

フォーマットは、コンベンション特設サイトよりダウンロード可能だ。

<http://origami.gr.jp/Convention/21st/index.html>

メールでのお申し込みは、申し込み用紙に記載の必要事項(名前、講習作品名、創作者、講習時間、難易度等)を記

入の上、作品写真を添えてwebman@origami.gr.jpまでお送りいただきたい。

●Origami ATC展示と交換会

徐々に認知度が高まっているOrigami ATC。今年も作品展示と交換会を開催する。今回のテーマは「和」。和の文字から連想するものを表現してほしい。作品展示をご希望の方は、メイン会場のOrigami ATC受け付け(会場の最前列に設置予定)にてタイトルカードと交換で作品を提出のこと。交換会は、16日12時50分より1307教室で開催する。

また、コンベンションに参加できない方のために、郵送参加も受け付けている。参加規定については、本誌P.25を参照のこと。



▲ジャン・ディン氏



▲シュウキ・カトウ氏

◆国際大学折紙連盟 第1回折り紙作品展(8月14~16日)

国際大学折紙連盟(ICOA)、International Collegiate Origami Associationの活動が始まった。最初のイベントとなる、東京での第21回折紙探偵団コンベンションとの併催による作品展示に向けての準備が本格化している。展示する個々の作品制作は勿論展示作品のリストやキャプションの作成、チラシの発送、仕事はいくらでもある。

先月までにエントリーした大学サークルは10、個人参加は17人となった。このうち、海外のサークル参加は1、個人参加は3カ国10人だ。

◆サークル参加(10大学)

東京大学折紙サークル Orist/折禅(慶應義塾大学) /九州大学折紙同好会 ORUTO/京大折紙サークル いまじろ~/東京工業大学折紙同好会 FIT/東洋大学折紙同好会 四季折々/千葉大学折紙サークル OLIOLI/東北大学折り紙サークル ORUXE/早稲田大学折り紙サークル W.O.L.F./マサチューセッツ工科大学Origami(USA)

◆個人参加(17大学)

金沢大学/東邦大学/杏林大学/広島大学/京都工芸繊維大学/静岡大学/近畿大学/東京農工大学/上越教育大学/茨城大学/ベルリン自由大学(ドイツ)/全州大學校/鮮文大學校(韓国)/Ton Duc Thang大学/中央藝術教育大学/ホーチミン市医療・医薬大学/ハノイ科学技術大学(ベトナム)

151号では、「創作作品のみ」としていたが、それでは参加できない人が増えてしまうため、他の作家による作品を折る「習作」が、展示できることになったことも大きい。

会場:東洋大学白山キャンパス

主催:国際大学折紙連盟(ICOA)

入場:無料

期間:8月14日(金)13:00~17:00

8月15日(土) 9:00~17:00

8月16日(日) 9:00~16:00

この展示は、折紙探偵団コンベンションに参加しなくても観覧できる。また合わせて折紙探偵団コンベンションの一般

展示も見学できるので、気軽にお越しいただきたい(教室、メイン会場などのコンベンション会場には、参加費を払わないと入れないのでご注意ください)。



▲折り紙作品展のチラシ

◆第5回折紙探偵団九州コンベンションレポート

三浦順子

5月30・31日の2日間、韓国からの24名を含む137名の参加者を迎えて、第5回目の折紙探偵団九州コンベンションは例年通り佐賀大学を会場に行われました。

今回のスペシャルゲストは36時間のフライトを経て遠いブラジルからお迎えたイサ・クライン氏。素敵な幾何学作品を沢山創作されており、全体講演ではその創作のインスピレーションがどのようにして湧き出るかのヒントをご紹介下さいました。作品を更に魅力的に飾るためにビーズや房飾りを加えたり、立体的で素敵な飾り台もスチールの太い針金を折り曲げてご自身の手で作られており、とても意欲的な意思とセンスを感じました。弁護士である彼女は理知的で美しい魅力的な方でした。通訳として来てくださったアメリカのマルシオ・ノグチ氏にも大変お世話になりました。

土日の2日間で5教室×9コマ、合計45コマの講習は、韓国の方々始め山口真氏やJOASボードメンバーの西川誠司氏・前川淳氏・川崎敏和氏・羽鳥公士郎

氏等々、沢山の有意義で贅沢な講習が盛り沢山。楽しく内容豊富な講習を受けることが出来ました。おりがみATCの交換会も2回目となり、38名の方々とのカード交換はとても興奮しました。郵送参加や立体になるカードも含め59種類もの作品を拝見し制作意欲が湧いてきました。また次回も楽しみです。

夜の懇親会はお酒もあり、山口氏の軽妙な司会に川崎氏との絡みは笑いの渦を……。永年折紙の世界を広め深めてくださった山口氏に九州スタッフからの感謝の寄せ書きと記念品のハブニングプレゼントもありました。韓国折紙協会会長のオ・キョンへさんから韓国コンベン



スペシャルゲストのイサ・クライン氏と通訳のマルシオ・ノグチ氏

ションのご案内も頂き、遠くから参加してくださった方々ともお話し出来て愉快なひと時となりました。

講習をしてくださった講師の方々、参加してくださった皆さまのご理解とご協力に心より感謝いたします。また今回も会場の手配をしてくださった佐賀大学文化教育学部の庄田敏宏准教授にこの場を借りて御礼申し上げます。

毎回の反省を踏まえ、さらに10回20回とより良い楽しいコンベンションにするべくスタッフ一同皆さまのご支援に応えていきたいと思っています。また来年のお越しを心よりお待ち申し上げております! (編注:P.24に関連写真掲載)



九州友の会から山口氏へ感謝の寄せ書きと記念品を贈呈しました

川井千世

◆Les Rencontres de Mai

「5月の出会い」、MFPP(フランス)のコンベンションの正式名称だ。毎年、移動祝日(5月のどこかの木曜日)から4日間、フランスの何処かで開催される。第26回目の今回は、5月14日~17日、パリからTGV(新幹線)で3時間半の大西洋に面する港町ラ・ロシェルで、その「出会い」の場が設けられた。

このコンベンションを一言で表すなら「ゆったりゆるゆる」。講習は1コマ1時間半~2時間、定員や事前チケットもなし。参加者は3種類の講習の中から、受けたい作品を選び、教室に行くだけ。席が足りなければ、どこから椅子を持ってくるし、机が足りなければ、講師机でだって

受講可能。講習作品が終わると、別の作品を習えたり、誰かが講師に名乗り出て別の講習が始まるという、日本では想定外のような事も起きる。総勢80名という小規模なコンベンションだから成り立つ自由さが快適だ。中でもびっくりなのは、2日目の14時~16時というゴールデンタイムに総会が開かれる事だ。幹部以外の参加者、招待作家さんまでもが放つたらかされ、其処彼処で折り紙の輪ができる。私もバーニー・ペイトンさんに、一昨年JOASのコンベンションで習えなかったアングリーフィッシュをセミプライベートレッスンで教えていただいた。3日目の午後は、3時間程、地元の方々に折り紙を紹

介する機会が設けられていた。MFPPの会員は展示作品を紹介したり、簡単な折り紙を教えたりするのだが、折り紙が初めてだという参加者の瞳は、いつ見ても、いいなと嬉しくなる。この時間ももちろん、一般参加者と招待作家さんは、折り紙、おしゃべり、散歩、自由時間だ。このように終始ゆったりの雰囲気のまま4日間のプログラムは消化していく。

ゆるゆるが故に、慣れない仏語の洪水にのまれ、取り残される恐れもある中、充実した時間を過ごせたのは、この「5月に出会った」参加者たちの適度な距離感、さりげない心遣いのおかげだ。ぜひ来年も「5月の出会い」で再会したい。



洗剤と絵の具を混ぜた泡で紙に模様を付ける教室



深夜、ブリクショナリ(何を折ったか当てるゲーム)に興じる若者たち



ゲストのバーニー・ペイトンさんと共に

折り紙教室もあります (国立天文台野辺山宇宙電波観測所特別公開)

8月22日(土)に、毎年恒例の、国立天文台野辺山宇宙電波観測所(長野県南佐久郡南牧村野辺山)の特別公開があります。同観測所には折り紙作家・前川淳氏が勤務しており、これも毎年恒例の折り紙教室があります。夏休みの一日、標高1300mの高原で、宇宙に思い馳せながら折り紙を折るのも一興です。詳細は、以下をごらんください。

http://www.nro.nao.ac.jp/visit/open2015/open2015_top.html

◆吉野一生基金への寄付について

第26期、7月14日現在、吉野一生基金には87人の方から1,102,580円の寄付をいただいております。ご協力ありがとうございます。皆様のお陰で、海外から将来を期待される優秀な若手作家や著名な作家を招くことができ、折り紙愛好家から好評を得ています。具体的には、東京の大会では2名を招待し、地方大会でも招待者の補助を行っております。また日本から海外への渡航助成も行っており、海外での経験は、若手の良い刺激となっているようです。今期より、ご協力くださった方々のお名前を、感謝の気持ちを込めて掲載させていただきます。

(50音順、敬称略)安西 豊、石川忠昭、石田佳数、

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール／参加費=大人500円(非購読・非会員700円)、中学生以下300円(非購読・非会員500円)／時間=14:00～16:00／研究会=16:00～(開場は13:45、満員の場合は、先着とします)

●8月1日(土)／講師:渡辺 大／作品:小鳥
●9月5日(土)／講師:井上岳哉／作品:ラッコ他

静岡友の会※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)／参加費=500円(中学生以下200円)／時間=10:30～15:00 ※昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参ください。

●8月2日(日)／講師:鈴木美恵子／作品:星・流れ星(作:前川淳)

東海友の会※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.152 / Published on 25, July 2015 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo : " Fiery Dragon ver.2 " Produced by Kade Chan ; Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher : Tsuda Yoshi / Editor in Chief : Yamaguchi Makoto / Editor : Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design : ORIGAMI HOUSE / Translator : Tateishi Koichi

折紙探偵団東京友の会より 例会参加費改定のお知らせ

2015年9月例会(9/5)以降、以下のように参加費を改定します。

■日本折紙会員・折紙探偵団マガジン購読者:高校生以上500円 中学生以下300円(現状と同じ)

■折紙探偵団マガジン非購読者:高校生以上700円 中学生以下500円

「購読者を含む家族」が参加する場合、「会員・購読の名義になっているかた」には「会員・購読者の価格」を適用します。「会員・購読の名義になっていないかた」は「非購読者の価格」です。

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

10月7日(水)／参加費=1,000円(材料費別)／11:00～16:00／講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等／講師=松浦英子／定員=20名／お茶を飲みながらの気楽な集まり。初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。10月7日のATC交換会のテーマは「食」です。詳しくはおりがみはうす公式サイトをご覧ください。<http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html>

◆「ある折り紙創作家の教室」

9月13日(日)／講師=神谷哲史／講習作品=未定／参加費=3,000円(材料費別)／11:00～16:00／定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「ある折り紙創作家の教室」は、2週間前(今回は8月30日以降)からキャンセル料(受講料の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはメールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■新しくスタートする国際大学折紙連盟。■各地で広がりを見せている大学折紙サークルが元になっている。■大学のサークルは、中心になっているメンバーが引退してしまうと継続が難しくなることが多い。

■普及には恒久的な運営ができる組織が必要だ、という事で大学折紙連盟が発想された。■さらにこれを国際的なものにしていくと国際大学折紙連盟を立ち上げた。■第1回の今年は時間もない中で既報通りの参加があった。■継続をしていくことで広がりを見せていくと思う。■8月下旬には韓国で、11月には金沢での開催も予定している。■機会があれば各地での開催も考えられる。■日本だけでなく海外でのエキシビションも目指した組織に向かって!■若者に託す夢。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2015年7月25日発行 第26巻2号 通巻152号
発行所／日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人／津田良夫

編集人／山口 真

編集スタッフ／松浦英子、神谷哲史

デザイン／おりがみはうす

翻訳／立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

広告のコーナー

I ❤ ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第20回記念折紙探偵団国際コンベンション

折り図集vol.20

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 61作品収録

オルガネラ・川村みゆき / ニワトリBOX:山梨明子 / 超新星・川崎敏和 / カマキリ:神谷哲史 / うさぎ:霞 誠志 / ダーサ・スター:アレッサンドロ・ベバー / ハムスター:ユ・テヨン / オコジョ:マヌエル・シルゴ / アメリカマナティー:クエンティン・トロリップ等、国内外の61作品を収録。

書籍名 / 著者/編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全228頁 / カラー1口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー1口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー1口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー1口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー1口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真編著 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去了したジョワゼル氏の作品写真集
第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まつた秀作 53作品を収録
第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まつた秀作 48作品を収録
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 50作品を収録
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 47作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1~2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押し口ゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ！

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>
おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中！*

*創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索 CLICK!

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています！



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



GALLERY ギャラリー おりがみはうす
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

ひか 光るちよがみ



¥300(税抜き)

暗い所で、
ボクたちを見てね！
どんな風に見えるかな～？



ヘルの折り方付き

蛍光灯や太陽光に当てる
暗い所で光ります。

暗い所で
ポワーンと光る♪



5
枚入り



ひか 光るおりがみ

暗闇でやわらかく光るおりがみ



¥200(税抜き)



5枚入り
みどり3枚
ピンク2枚



●写真は印刷ですので実際の商品とは色が異なる場合があります。

※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。

本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店／名古屋営業所／福岡出張所／札幌出張所

 株式会社トーヨー

ORIGAMI

The 1st Exhibition of International Collegiate Origami Association

国際大学折紙連盟 折り紙作品展

会場: 東洋大学白山キャンパス
東京都文京区白山5丁目

主催: 国際大学折紙連盟(ICOA)

入場: 無料

期間: 8月14日(金) 13:00~17:00

8月15日(土) 9:00~17:00

8月16日(日) 9:00~16:00

※折紙探偵団コンベンションの一般作品展示も
ご覧いただけます(15日、16日のみ)

国際大学折紙連盟(ICOA)は、大学の折り紙サークルの恒常的な継続と、グローバルな発展を目指すことを目的に、日本折紙学会の普及活動の一つとして発足した団体です。その最初の活動として、8/14~16、東洋大学で開催される「折紙探偵団コンベンション」との併催で、折り紙作品展示を行うこととなりました。国内外の大学生が作った折り紙作品を一同に介した、最先端の折り紙に触ることのできる作品展です。是非お誘い合わせの上、ご来場ください。

◆サークル参加

東京大学折紙サークル Orist/折禅(慶應義塾大学)/九州大学折紙同好会 ORUTO/京大折紙サークル いまじろ~/東京工業大学折紙同好会 FIT/東洋大学折り紙同好会 四季折々/千葉大学折紙サークル OLIOLI/東北大学折り紙サークル ORUXE/早稲田大学折り紙サークル W.O.L.F./マサチューセッツ工科大学 ORIGAMIT(USA)

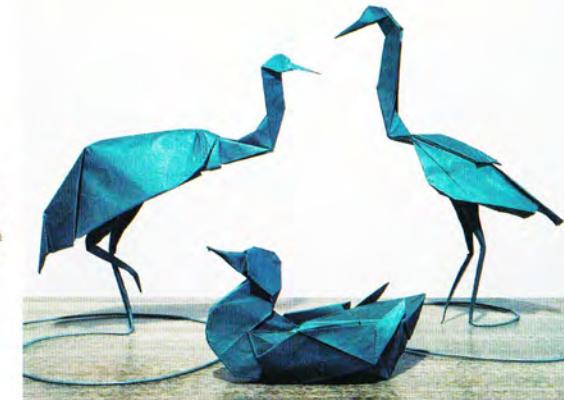
◆個人参加(大学名)

金沢大学/東邦大学/杏林大学/広島大学/京都工芸繊維大学/静岡大学/近畿大学/東京農工大学/上越教育大学/茨城大学/ベルリン自由大学(ドイツ)/全州大学校/鮮文大学校(韓国)/Ton Duc Thang大学/中央芸術教育大学/ホーチミン市医療・医薬大学/ハノイ科学技術大学/ドンソアイ大学(ベトナム)

同時開催
第21回
折紙探偵団コンベンション
参加申し込み受付中
<http://www.origami.gr.jp/>



「犬」ライン ドゥク カイン
(中央芸術教育大学:ベトナム)



「TSURU」「KAMO」「SAGI」吉武勇人(九州大学)



「タテガミオオカミ」山本大雅(慶應義塾大学)

「Dragon Ruler of Origami」
仮屋薗寛悟(広島大学)



「Wild Boar」ジャン・ヨンイク(全州大学校:韓国)



「魔法少女」佐久間達也(東大Orist/日本大学)



「人魚」森澤碧人(早稲田大学)



「ケンタウロス」海闊・チュルク
(ベルリン自由大学:ドイツ)



「こまっけろ」道場貴大(東京大学)



「ティノニクス」
レ ユイ ピン
(ホーチミン市医療・医薬大学:ベトナム)



「グリフォン」高村侑樹(東京工業大学)



「ヤギ」タ チュン ドング
(ドンソアイ大学:ベトナム)



「ドラゴン」
結城伸吾
(近畿大学)



「ネブチューンオオカブト」中村 楓(杏林大学)



「花」ファム ホアン ハイ
(ハノイ科学技術大学:ベトナム)



「孔雀鶴」富田岳陽(慶應義塾大学)



「ゴリラ」笛沼勇人(東京工業大学)



「ティラノサウルス」熊谷光泰(東洋大学)



「チビ雄牛」レ ヤイン
(トンドゥク タイン大学:ベトナム)



国際大学折紙連盟

International Collegiate Origami Association

〒113-0001 東京都文京区白山 1-33-8-216

TEL: 03-5684-6080 (日本折紙学会事務局内)

Email: icoa@origami.gr.jp

Find us on Facebook

